

県病薬やまがた 広報誌

No. **36**
2025

Yamagata Hospital Pharmacist meeting

- 巻頭言
 - 会長挨拶
 - 受賞にあたって
 - 特集記事
 - 新人紹介
 - 会員報告
 - 総会報告・委員会報告
 - 会員名簿
 - 賛助会員名簿
 - 定 款
- 副会長 西村 雅次
会 長 山口 浩明



表紙写真

日本海総合病院	鶴岡市立荘内病院
山形大学医学部 附属病院	公立置賜総合病院



『県病薬やまがた広報誌』No.36 発刊によせて

一般社団法人 山形県病院薬剤師会
副会長 西村 雅次

病院薬剤師の仕事は、まるで“見えない糸をつなぐ職人”のようです。医師の意図と患者の生活、電子カルテのデータと実際の服薬状況、それらを丁寧にたぐり寄せ、ほつれを見つけ、よりよい治療へと導いていく……。なんて少し格好つけた言い回しから始めてしまったかもしれませんが、振り返ると本当にそんな役割を担ってきたように思います。

1991年に入職して34年、病院薬剤師として歩んできた年月の中で、薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しました。1990年代には院外処方箋が徐々に普及し、医薬分業が進展。1992年の医療法改正では、薬剤師が「医療の担い手」であることが明記されました。2006年には薬剤師養成制度の強化と臨床実務教育の拡充が求められ、薬学教育が4年制から6年制に移行しました。2012年に当院にも初めて6年制卒の新人薬剤師が入職したときの新鮮な空気を今も覚えています。同年に新設された「病棟薬剤業務実施加算」により、病棟での直接的な薬学介入が評価され、薬剤師の対人業務が大きく前進しました。2011年の東日本大震災では、県内の病院からD-MATや医療救護班の現地への派遣、山形県へ避難してきた被災者からの使用薬剤の聞き取りやお薬手帳の確認などを行い、効率的な診察・投薬を可能にし、被災者支援に尽力しました。多くの薬剤師が職能を生かして積極的にかわり、活動している姿は心強く感じました。私自身も山形市総合スポーツセンターで活動し、ひと息ついていたところをニュース専門チャンネルCNNの外国人クルーに取材され、驚いたことを今でも鮮明に覚えています。2019年末からの新型コロナウイルス(COVID19)の流行時には、医薬品の確保や適正使用、院内感染制御、複雑なワクチン管理や調製など、薬剤

師の活動は院内・院外(地域)で行い、薬剤師の役割は高く評価されました。近年では病棟薬剤師の業務を充実させることで、医薬品安全使用の推進や医療の質の向上が期待され、薬剤師の職能が広く認められています。多職種連携・チーム医療への参画、タスクシフト・シェア、後発・後続医薬品の推進、医薬品の安定確保、在宅医療・多剤併用対策(ポリファーマシー)、地域連携など多くの課題や取り組みにおいて薬剤師の専門性が発揮できる時代となりました。さらに医療DXの推進により、電子カルテ情報の共有や薬剤情報のデータベース化が進み、薬剤師が情報のハブとして機能する場面が増えています。また、地域との情報共有の推進へも協力していかなければなりません。医療を取り巻く環境は厳しさを増し、病院の経営環境の変化や、薬剤師不足といった課題もありますが、薬剤師の存在意義は確実に広がっています。まさに薬剤師の「つなぐ力」が求められていると感じます。

こうして振り返ると、同じ「病院薬剤師」という肩書でありながら、今立っている現状は昔とはまるで異なる世界です。社会の変化に伴い、薬剤師に託される役割はこれからも増えていき、AIなどを有効利用していくことが必須となるでしょう。薬剤の知識だけではなく、医療制度やコミュニケーション力や医療経営、地域との連携など、幅広い知識とスキルを身につけ、必要とされる薬剤師であり続けたい……そう強く感じています。

最後になりましたが、この広報誌が会員の皆さま情報の共有や交流への一助となり、地域の医療を支える力が広がっていくことを願っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



会長挨拶

一般社団法人 山形県病院薬剤師会

会長 山口 浩明

一般社団法人山形県病院薬剤師会の会長を務めております、山形大学医学部附属病院の山口浩明です。このたび、引き続き会長職を拝命し、2期目を迎えることとなりました。改めまして、会員の皆様をはじめ、関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

第1期では、病院薬剤師の職能向上と地域医療への貢献を目指し、当会の組織体制を見直し、病院薬剤師確保特別委員会やDX推進特別委員会を新設しました。また、地域の声をより反映できるよう、従来の4ブロック制から5エリア制へと再編し、エリアマネージャーを配置することで、地域ごとの課題にきめ細かく対応できる体制を整えました。

山形県は全国でも高齢化が著しく進んでおり、今後、医療・介護の需要はさらに増加すると予想されます。その中で、病院薬剤師が果たす役割は一層重要になっています。薬剤師は薬物療法の専門職として、医師・看護師・その他医療スタッフとこれまで以上に協働し、チーム医療の中核として貢献することが期待されています。

現在、最も深刻な課題は、山形県内における病院薬剤師の確保と地域偏在の解消です。山形県の病院薬剤師偏在指標は全国でも下位にあり、地域によっては医療体制の維持危ぶまれる状況も見受けられます。こうした現状を踏まえ、令和5年12月には山形県知事に対し、県内における国公立大学の薬学部設置を要望いたしました。地元で学び、地元で貢献する薬剤師の育成は、地域医療の持続可能性を高めるうえで不可欠です。令和6年に策定された第8次山形

県保健医療計画においては、病院薬剤師の確保について具体的な目標値が示されました。山形県は全国に先駆けて開始した「山形県病院薬剤師奨学金返還支援事業」を継続実施し、当会との協力体制を一層強化して、病院薬剤師の確保に努めていただいております。さらに、厚生労働省の令和6年度薬剤師確保のための調査・検討事業において、山形県の「病院薬剤師不足が深刻化している要支援医療機関への協力体制整備事業」が採択されました。山形県と当会が中心となって「山形県病院薬剤師コントロールセンター」を設置し、1ヶ月間の薬剤師モデル派遣を実施するなど、地域偏在の解消に向けた基盤整備を進めております。

第2期では、これまでの取り組みをさらに発展させ、より実効性のある施策を実現するため、行政や関係団体との連携を一層強化してまいります。特に、医療DXの推進、タスク・シフト／シェアへの対応、若手薬剤師の育成・定着支援、災害時の対応など、現場のニーズに即した活動を展開していく所存です。

令和5年には、当会創立55周年という節目の年を迎え、記念式典をはじめとする各種行事を無事に終えることができました。これまでの歩みを振り返り、未来への展望を共有する貴重な機会となりましたことを、改めて関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今後とも、病院薬剤師が地域医療においてより一層活躍できるよう、皆様とともに歩みを進めてまいります。引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度薬事功労者厚生労働大臣表彰 受賞にあたって



日新薬品株式会社

羽太 光範

厚生労働大臣表彰を賜ってから一年が経ち、還暦という節目を迎えた今、改めてこの榮譽に対し、心より深く感謝申し上げます。

病院勤めの頃を振り返れば、ただひたすらに走り続けた日々でした。おかげ様で、さまざまな仕事に携わる機会をいただき、その積み重ねが「経験のかげら」となりました。

今では、少し距離を置いた場所から差し出す言葉が、若い世代に「なるほど」と響いてくれるなら、これに勝る喜びはございません。

肩の力を抜いて人と向き合える日々をありがたく感じながら、これからも現場の声に耳を傾け、静かに歩みを重ねてまいりたいと存じます。

末筆ながら、この度は誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

令和6年度薬事功労者厚生労働大臣表彰 受賞にあたって



一般社団法人山形県薬剤師会
会 長 **岡崎千賀子**

令和6年度薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞し、昨年10月21日東京都内にて表彰状ならびに記念品を拝受してまいりました。当日は、山形県病院薬剤師会の羽太光範元会長と同時の受賞で、厳かな式典の中で馴染みの顔が横にあるのはとても心強いことでした。

30年以上薬業に携わってまいりましたが、病院薬剤師として勤務した経験は、薬剤師免許取得直後のほんの短期間です。薬事情報センターに勤めることとなり、右も左も分からぬまま薬剤師向けのDIを担当することになって山形県病院薬剤師会に入会したことが縁となり、今に至ります。未熟な若き薬剤師の私に、故大橋克也元会長、故仲川義人元会長が直接ご指導くださったこと、自信を持たせてくださったことを懐かしく思い出します。

山形市薬剤師会の役員を24年、山形県薬剤師会の役員を10年務める間には、東日本大震災、コロナ禍や様々な災禍を経験しましたが、病院薬剤師の先生との連携無しでの会務遂行は不可能だったと確信しています。本受賞にあたり、病院薬剤師会の会員の皆様のご厚情に感謝申し上げます。

令和6年度薬事功労者山形県知事感謝状 受賞にあたって



鶴岡市立荘内病院 診療部薬局
副主幹 **鎌田 敬志**

2024年11月19日(火)山形県庁にて山形県知事薬事功労者感謝状を拝受いたしました。病院ならびに地域で行ってきた薬事業務の時間を県民の保険衛生の維持向上に寄与したとご評価いただき嬉しく思います。鶴岡市立荘内病院や山形県病院薬剤師会の皆様ならびに諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

1989年、鶴岡市立荘内病院に入職してから少しずつ業務を習得して、2023年から2年間は薬局長を拝命し更なる業務を遂行いたしました。

2021年、一般社団法人化した山形県病院薬剤師会の糖尿病専門領域部門の部長を拝命し、2023年慢性腎臓病を意識した糖尿病関連専門領域と改め、山形県病院薬剤師会に属する薬剤師が研鑽できるよう活動し、部員の皆様のお力添えいただきました。

更に薬剤師が糖尿病についてブラッシュアップため研究会を立ち上げ、これまで庄内薬剤師糖尿病講演会を15回、山形県糖尿病療養指導・薬学研修会を6回、企画・開催しており、毎年多くの方の参加いただき感謝申し上げます。

結にあたり、今後も微力ながら、県民の保険衛生に寄与し続けるため、私自身研鑽を積んで参りたいと思います。誠にありがとうございました。

令和6年度薬事功労者山形県知事感謝状 受賞にあたって



北村山公立病院

薬剤部 **國井 健**

このたび、薬事功労者として山形県知事感謝状を賜り、身に余る光栄に存じます。これまでの歩みを振り返りますと、決して私一人の力ではなく、長年にわたりご指導くださった諸先輩方、共に励んできた同僚、そして日々現場を支えてくださるスタッフの皆様のおかげと、改めて深く感謝申し上げます。特に理事を務めた数年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大と共に始まり、その収束と共に任期を終えるという、まさに時代の大きな節目と重なりました。混乱の中で病院薬剤師としてどのように地域医療に貢献できるかを模索する日々は大きな試練であると同時に、かけがえのない学びの機会でもありました。今回の受賞は、そうした経験を共に支えてくださった仲間と分かち合うべきものと感じております。なお、もうしばらくの間は現在の北村山公立病院薬剤部でお世話になる予定であり、これからも研鑽を重ね、後進の育成と地域医療の発展に力を尽くしてまいります。

令和7年度永年会員表彰を受賞して



山形さくら町病院

薬剤科長 **齋藤 寛**

この度、山形県病院薬剤師会より永年会員表彰を頂き、誠にありがとうございます。これまで現場でご指導くださった先輩方やお世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

山形さくら町病院（当時山形病院）に入職した時は、非定型抗精神病薬がリスパダールのみで、多剤大量療法の患者様も多く、戸惑いながらも日々の業務に向き合っていました。精神科薬物療法認定薬剤師の講習会で得た知識をきっかけに、単剤化の推進や持効性注射剤の導入、治療抵抗性統合失調症治療薬クロザリルの使用など、少しずつ薬物療法の改善に取り組んできました。外来処方が院内調剤だった頃は、業務の煩雑さと調剤数の多さで忙殺されておりましたが、先輩や同僚の支えに助けられ、乗り越えることができました。

これまでの経験を大切にしながら、今後も地域の精神科医療に貢献できるよう、努力を続けて参ります。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和7年度永年会員表彰を受賞して



北村山公立病院

大類あかね

このたび、永年勤続25年という節目にあたり、光栄な表彰をいただき、心より感謝申し上げます。ここまで歩んでこられたのは、共に働く同僚や職場の皆さま、そして家族の支えがあってこそだと深く感じております。

振り返ると、この25年で病院薬剤師の役割は大きく変化しました。かつての調剤中心の業務から、病棟活動やチーム医療へと領域が広がり、より専門性を発揮する場面が増えました。これは薬剤師一人ひとりが努力を重ね、信頼を築いてきた成果だと思います。

一方で、AIやデジタル技術の進化により、医療は新たな時代を迎えています。業務の効率化が進む中でも、患者さんに寄り添う姿勢や人との信頼関係は、これからも変わらず大切にしていきたいと考えています。新しいことを吸収するスピードは衰えてきておりますが、時代の流れについていけるよう努力を続け、これからは自身の成長とともに、後進の育成にも励んでまいります。

第4回山形県病院薬剤師会学術大会 優秀発表賞



山形済生病院

薬剤部 佐藤 智也

この度は、第4回山形県病院薬剤師会学術大会において、優秀発表賞を賜りまして、大変光栄に思っております。今回の発表は、患者の転院時に転院先の医療機関に対して薬剤情報サマリーを発行するという、当院薬剤部の新たな取り組みについての内容でした。この取り組みを評価していただいたことを大変うれしく感じます。

患者に安全で質の高い薬物療法を切れ目なく提供するためには、地域の薬剤師同士で連携することが必要であると考えます。2020年度の診療報酬改定で、退院時薬剤情報連携加算が新設されてから、病院薬剤師と保険薬局薬剤師との連携は進んでいるものの、病院薬剤師同士の連携はまだまだ進んでいないのが現状ではないでしょうか。病院薬剤師同士で患者の薬剤情報を共有することが文化として定着するよう、本取り組みをさらに発展させていきたいと思っております。

今後さらに、当院薬剤部は地域医療に貢献できるよう努めて参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度優秀論文賞 最優秀論文賞

山形市立病院済生館

岡田 美桜

このたび、山形県病院薬剤師会論文最優秀賞という貴重な賞を頂き、大変光栄に思っております。ご指導くださった先生方をはじめ、日頃の業務を通じて多くのご助言やお力添えをいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

本研究では、疑義照会業務の簡素化を目的に、一定の条件下で照会を省略できるプロトコルを作成し、その有用性と課題を評価しました。疑義照会は、安全かつ適切な薬物療法を行うために欠かせない一方で、薬剤師の負担が大きい業務でもあります。

今回の取り組みを通じて、効率化と安全性の両立を図る工夫の重要性を改めて感じました。今後も、日々の業務の中で感じる課題に向き合い、より良い体制づくりに少しずつ貢献できるよう努めていきたいと思っております。

このたびの受賞を励みに、引き続き研鑽を重ねてまいります。

令和6年度優秀論文賞 優秀論文賞

山形市立病院済生館

田中 沙織

この度は、令和6年度優秀論文賞をいただきまして、誠にありがとうございます。薬局長はじめ、先輩方から、論文内容や書き方等に関してご助言をいただき、完成させることができました。

「散薬調剤ロボット導入による業務効率化の検討」というテーマでの研究、論文を通して、私自身、改めて薬局業務について考えるきっかけとなりました。また、薬局全体としても、このロボットを活用することで、調剤業務の効率化を図ることができました。それによって、病棟業務時間の確保ができ、患者さんへのより良い薬物療法の提供と、質の高い医療につながるのではないかと考えられました。

これからも、患者さんが安心して薬物療法を受けることができるような薬剤師業務を目指して、日々精進して参ります。今後ともご指導よろしくお願いたします。

ホームページリニューアルのお知らせ

広報委員会・事務局



このたび、県病院薬剤師会のホームページが新しく生まれ変わります。

ホームページのリニューアルとメンテナンスの一部を外部委託し、内容の充実化・セキュリティ面の向上を得ることができました。

日々の活動や情報収集・発信をよりスムーズに、より便利で活用しやすい場とすべく、以下の機能を充実させています。

◆ 研修会カレンダー

研修会情報がトップ画面で確認でき、各研修の詳細ページから直接申し込みが可能です。

また、研修会の予定を一目でご確認いただける「研修会カレンダー機能」を追加いたしました。皆さまのご都合に合わせて参加しやすくなるよう工夫しております。

研修会は、日々の業務に役立つ知識や交流の場として大切に考えております。

ぜひ積極的にご参加いただき、共に学び合い、組織全体の力を高めていければ幸いです。



◆ 求人情報ページ

「山形県の病院で働こうと思ったけど、どういう病院があって、どこが募集しているか何をみたらいいかな？」の声から、求人募集病院を地図から一覧できる仕組みを整えました。

県内で働く病院薬剤師の確保、キャリア形成を支援するため、求人情報を拡充し、最新の募集情報を随時掲載します（URLの修正等があれば事務局までご連絡ください）。

地域の医療機関の情報を一目で確認できることで、求職者の皆さまが安心して応募先を選べるようになります。

この取り組みを通じて人材確保をより円滑に進め、医療現場の力を高めていき、未来の医療を共に支えていきたいと考えます。



《採用募集・県内医療機関リスト》

※下記の地区名をクリックし、地区毎の医療機関リストに移動します。

庄内地区 | 最上地区 | 村山地区 | 置賜地区

医療機関名称	病院ホームページ	薬剤部門	採用情報
医療法人協友会本荘病院	▶ https://www.kanpukai-sakata.jp/		
医療法人山管舎 山管病院	▶ https://www.sanyokai.jp/		採用情報
医療法人源昌堂病院	▶ http://www.nigata-hp.jp/		
医療法人徳仁堂徳仁病院	▶ https://www.gude-hospital.jp/	薬剤部門	
山形県酒田市病院特別看護日本海薬製りハビリテーション病院	▶ https://www.nihonkai-hos.jp/medicalsemory/	薬剤部門	
山形県酒田市病院特別看護日本海総合病院	▶ https://www.nihonkai-hos.jp/hospital/	薬剤部門	
山形県立こころの医療センター	▶ http://www.hosp-gyomaga.jp/	薬剤部門	
庄内医療生活協同組合病院協立病院	▶ http://www.mwssp.com/hospital/		採用情報
医療法人徳洲会庄内会館病院	▶ https://www.taiseikai-hp.jp/		採用情報
徳洲会立りハビリテーション病院	▶ http://www.mwssp.com/rehabilit/		採用情報
徳洲会立庄内病院	▶ https://www.taiseikai-hos.jp/	薬剤部門	採用情報

Instagram・Xもホームページにリンクを貼りました。

今回のリニューアルを通じて、会員の皆さまがより快適に情報を活用できることを目指しています。ぜひ新しいホームページをご覧ください、日々の活動にお役立てください。

活動報告

被災状況報告フォームの運用について

災害対策委員会 ○大熊 良和、今橋 良太、吉田 崇志、佐藤 遼
佐藤 拓也、小竹 美穂、西村 雅次

近年、多くの地域で自然災害による人的被害や施設被害が発生しており、特に台風や線状降水帯を中心とした風水害による被害報告は顕著に増加しています。厚生労働省は災害時の対応力・復旧速度強化を目的として事業継続計画（Business Continuity Plan :BCP）の策定を病院へ命じていますが、薬事関係については、病院薬剤師会としても病院と同様に迅速かつ確かな対応が求められます。

2024年7月25日、山形県でも庄内・最上地方を中心に大雨による大きな被害を受けました。当時は山形県病院薬剤師会（以下、山形県病薬）としての被災時の情報収集方法が確立していなく、状況確認と報告に多くの時間を要しました。その反省から、山形県病薬では被災時の情報収集ツールとして「被災状況報告フォーム」を運用することを決定したため、その目的と概要について紹介します。

●被災状況報告フォームとは

日本病院薬剤師会（以下、日病薬）が作成している「薬剤部門 被災状況支援ニーズ報告」を山形県病薬用にカスタムしたフォーム（Google form）になります。（図1）

具体的な内容は、①人的被害（薬剤部職員の被災状況、勤務できる職員は充足しているか等）、②物的被害（薬剤部内の施設被災状況、薬品の損害と流通状況等）、③外部支援の必要性（災害登録派遣薬剤師等の派遣要否）について報告できます。

薬剤部長などの各病院所属長からの報告を想定していますが、被災時に必ず所属長が動けるとも限らないため、代理による入力も可能としています。

入力方法



<https://forms.gle/p2PBZ9FSez2s5TC56>

・LINE WORKS(フォルダ内) に入力フォームを格納

- 日病薬から情報収集依頼が来た場合
- 山形県病薬会長が必要と判断した場合

全病院へ フォーム入力依頼

図1

●被災状況報告フォームを使用する目的

2024年の大雨被害による山形県病薬の対応で問題となった内容の一つに「情報収集内容の不明確さ」がありました。各病院から報告される内容に統一感がなく、情報をまとめることに多くの時間を要しました。また、情報収集を行う目的によっても必要な情報が左右されます。そのため、情報収集を行う目的を明確にする必要がありました。

以上より、情報収集を行う目的を「迅速な外部支援依頼」として、支援元の日病薬が必要とする情報に焦点をあてて、各病院からの報告内容の統一を図りました。報告内容は、山形県病薬と日病薬で同時に共有でき、スプレッドシートにより一覧表となるため、迅速な外部支援依頼につなげることができます。(図2)

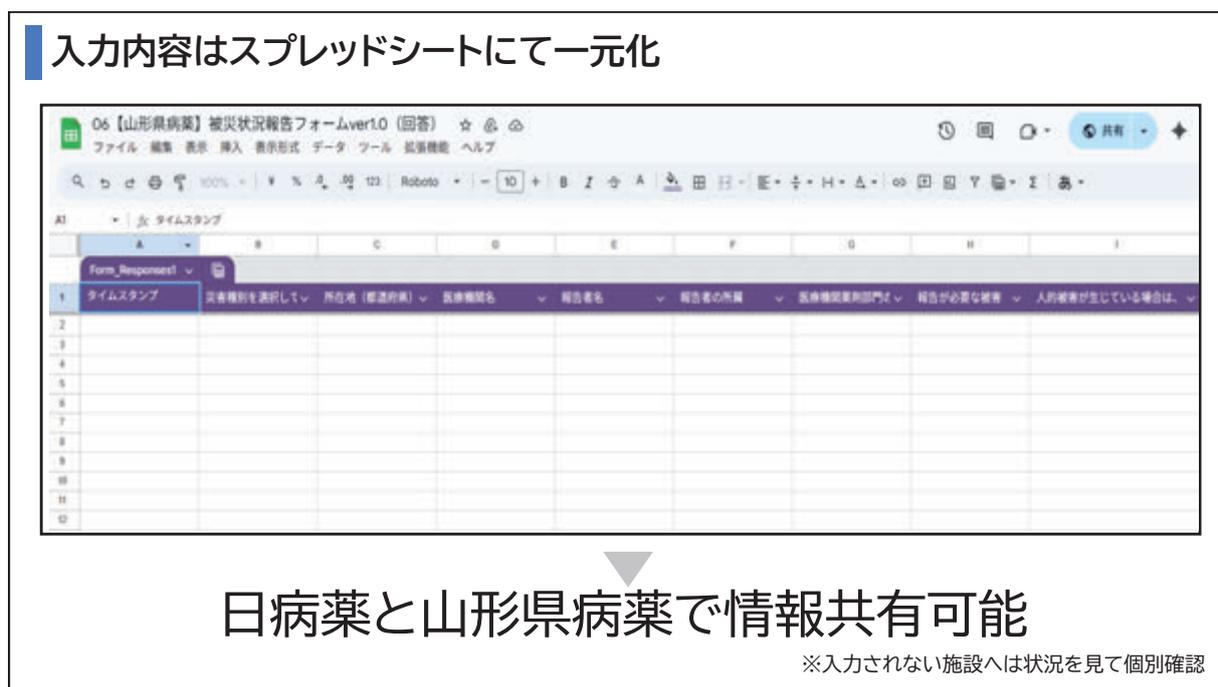


図2

●被災状況報告フォームの活用

被災状況報告フォームを使用することにより迅速な外部支援を依頼できることは前述の通りですが、これ以外にも多くの活用方法が見込めます。一つは、「会員間の情報共有ツール」としての活用です。2024年の大雨被害時には、「他の会員の被災状況が知りたい」「被災した会員のため、何かできることがあれば協力したい」といった声が寄せられました。そのため、フォームの回答状況（スプレッドシート）をLINE WORKS等で公開することにより、会員間でも状況を確認できるようにしました。また、大規模災害時に山形県庁に立ち上がる山形県保健医療福祉調整本部（以下、調整本部）との連携にも活用できます。病院の被害や周辺の薬剤流通状況を調整本部が確認できることで、DMATや卸協会との調整など、災害登録派遣薬剤師以外の外部支援の必要性を迅速に判断できます。(図3)

なお、ともに不特定多数に情報が公開されることとなるため、個人情報の入力に配慮したフォームを作成しました。

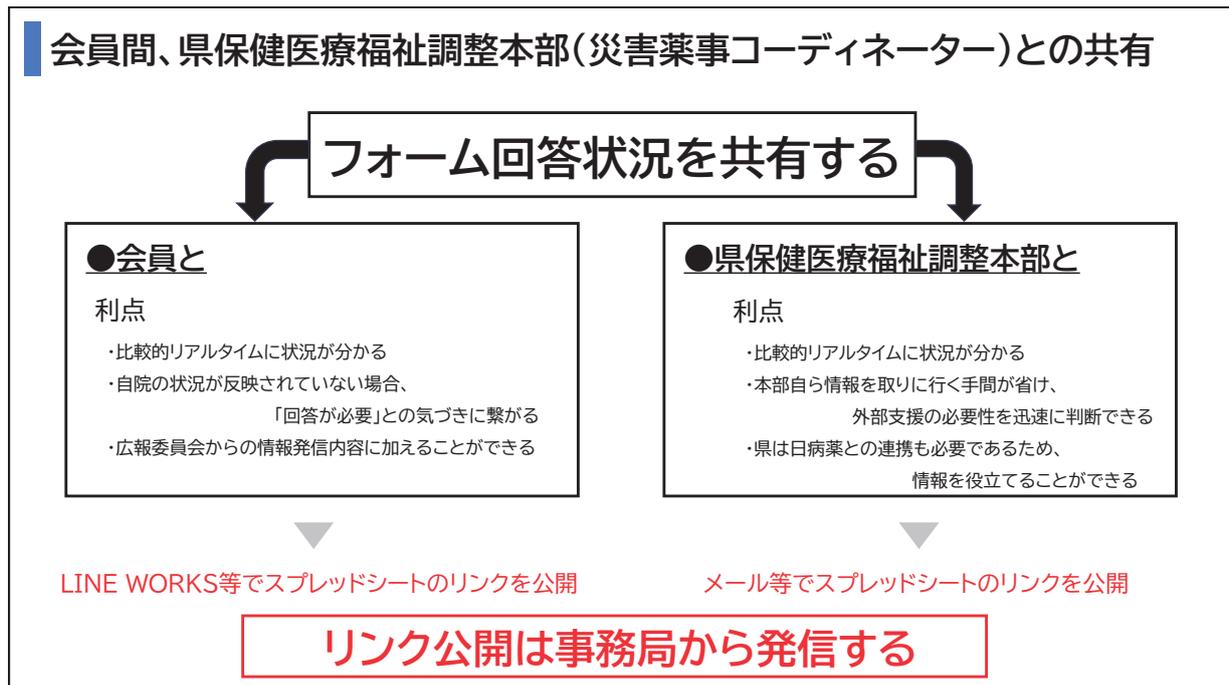


図3

●被災状況報告フォームの今後

まずは、定期的にフォーム入力訓練を行うことで問題点を抽出し、適宜改良を重ねていきたいと考えています。入力訓練の際は各病院所属長のご協力をいただければ幸いです。

また、今後、災害薬事コーディネーター（※）が調整本部に入ることによって、災害時の薬事に関する調整体制が大きく変わります。山形県病薬の災害対策委員会では災害薬事コーディネーターとの連携も視野に入れて、フォームの運用方法をはじめとした発災時の行動計画について検討していきたいと考えています。

※災害薬事コーディネーター：災害時の薬剤流通・管理、人的支援の必要性などについて調整を行い、薬事関係の問題解決を担う薬剤師のこと。山形県では2026年2月に委嘱予定。

調

査

各地域における病院薬剤師専門資格状況

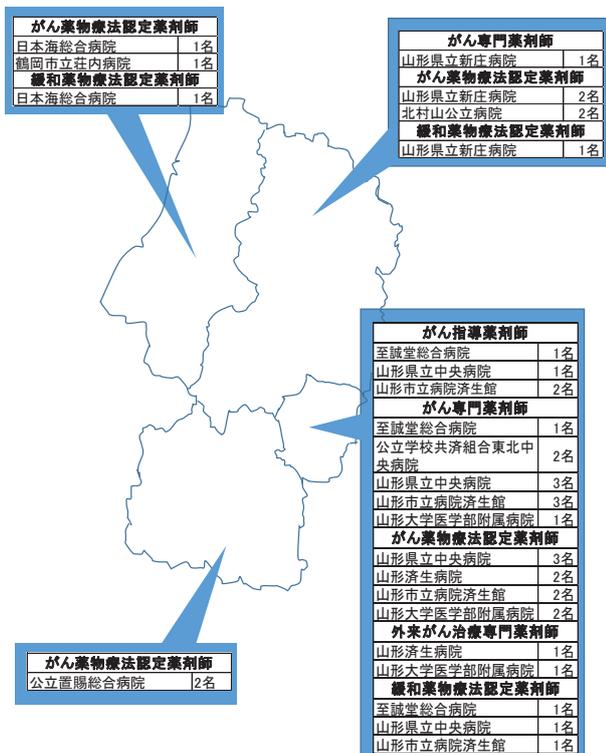
広報委員会

広報委員会では今回、県内にどのような資格を取得している薬剤師が、どのような割合で分布しているのか調査しました。資格制度は、薬剤師一人一人の専門性を認定するだけでなく、地域や施設を超えて、薬剤師会全体の信頼性を高める力となります。日々の業務に安心と誇りを持って取り組む助けとなれば幸いです。

全57施設のうち34施設から回答がありました（2025年11月1日現在）。

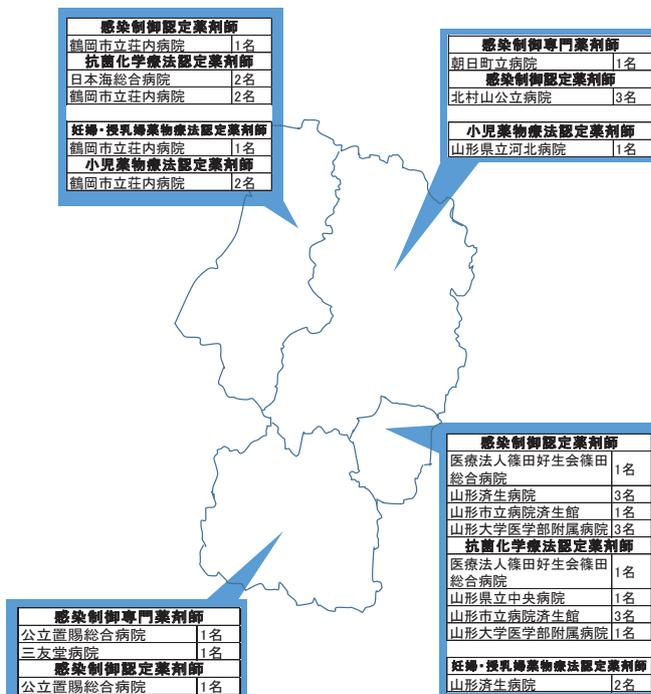
がん・緩和関連の専門資格

日本病院薬剤師会、日本医療薬学会
日本臨床腫瘍薬学会、日本緩和医療薬学会



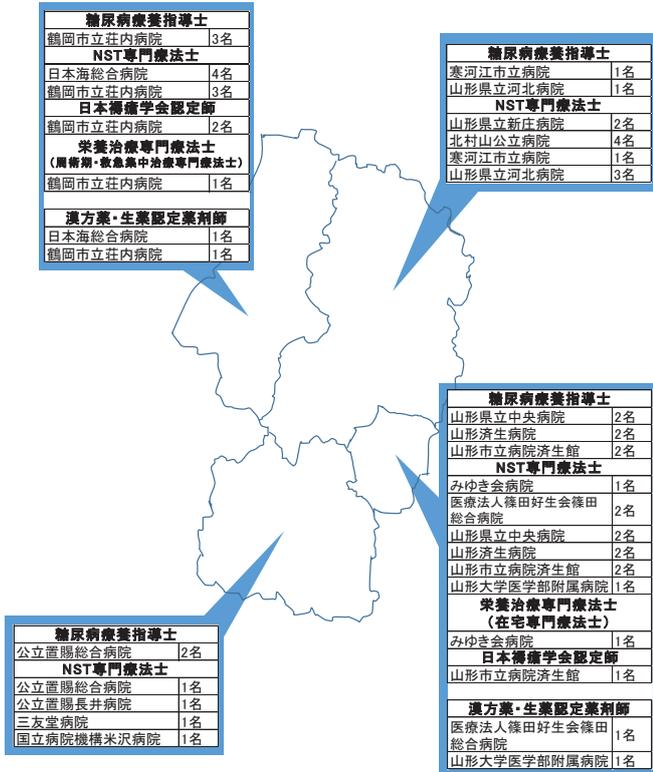
感染関連、小児・妊婦・授乳婦の専門資格

日本病院薬剤師会、日本化学療法学会
日本薬剤師研修センター



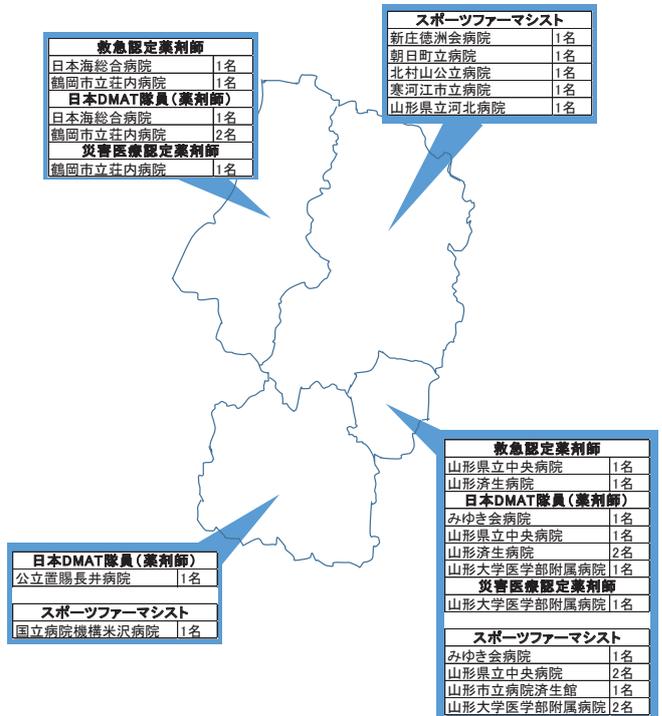
糖尿病、NST関連、褥瘡、漢方・生薬の専門資格

日本糖尿病療養指導士認定機構、日本栄養治療学会
日本褥瘡学会、日本薬剤師研修センター



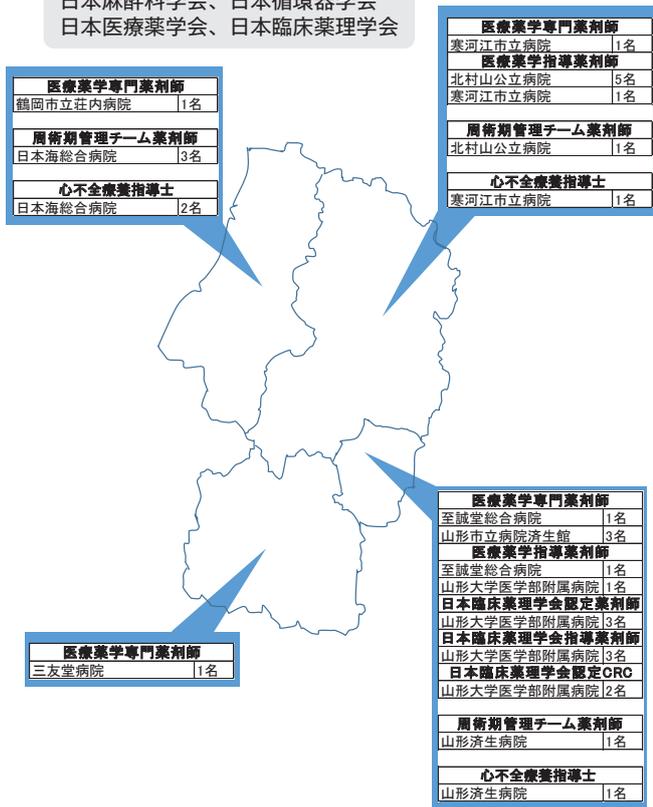
救急、災害、スポーツファーマシストの専門資格

厚生労働省、日本臨床救急医学会
日本災害医学会、日本アンチ・ドーピング機構



周術期、心不全、医療薬学等の専門資格

日本麻酔科学会、日本循環器学会
日本医療薬学会、日本臨床薬理学会



その他の専門資格

	庄内ブロック	村山最上ブロック	山形ブロック	置賜ブロック
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	3名	7名	10名	0
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師	11名	5名	21名	9名
日本病院薬剤師会 日病薬師薬学認定薬剤師	15名	11名	54名	15名
日本病院薬剤師会 生薬研修認定薬剤師	0	5名	2名	0
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	0	5名	0	0

山形県病院薬剤師に取得者がいない専門資格一覧

- ICD
- 腎臓病薬物療法専門薬剤師
- 腎臓病薬物療法認定薬剤師
- 精神科専門薬剤師
- 精神科薬物療法認定薬剤師
- 妊婦・授乳婦専門薬剤師
- HIV感染症専門薬剤師
- HIV感染薬物療法認定薬剤師
- 薬物療法専門薬剤師
- 薬物療法指導薬剤師
- 薬物療法指導薬剤師
- 医薬品情報専門薬剤師
- 医療情報技師
- プライマリ・ケア認定薬剤師
- 麻薬教育認定薬剤師

※2025年6月末日までに入会された方で原稿を提出していただいた方を掲載しています。

新人紹介

- ①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年
- ②出身高校
- ③趣味
- ④抱負

庄内エリア

日本海総合病院



鈴木 絢女

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②本荘高等学校
- ③ドライブ
- ④信頼される薬剤師
となれるよう日々

精進したいと思います。

日本海総合病院



三塚 寛也

- ①山陽小野田市立
山口東京理科大学
2025年卒業
- ②川越高等学校
- ③野球観戦、漫才鑑賞
- ④病院薬剤師として

庄内地域の医療に貢献できるように日々取り組みます。

本間病院



菅原 真帆

- ①日本薬科大学
2024年卒業
- ②酒田西高等学校
- ③ラーメン店巡り、
温泉巡り
- ④戦力として認めて

もらえるように日々仕事に励んでいきたい
と思います！

鶴岡市立荘内病院



小野寺春奈

- ①山陽小野田市立
山口東京理科大学
2025年卒業
- ②鶴岡南高等学校
- ③音楽を聴くこと、
アニメ鑑賞

④様々なことを学びながら日々成長できるよ
う頑張ります。よろしくお願いいたします。

最上エリア

山形県立新庄病院



工藤 礼菜

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②山形西高等学校
- ③ドライブ、ドラマ
鑑賞
- ④患者さんの心に寄
り添える薬剤師になれるよう、日々の業務
に取り組んでいきたいです。

村山エリア

寒河江市立病院



阿部 千聖

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②山形南高等学校
- ③スノーボード
- ④患者さんや他職種
の方から必要とさ
れる薬剤師を目指して努力していきます。

新人紹介

山形エリア

- ①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年
②出身高校 ③趣味 ④抱負

篠田総合病院



海野 夏未

- ①医療創生大学
2025年卒業
- ②山本学園高等学校
(現 惺山高等学校)
- ③カラオケ、ゲーム、
アニメ鑑賞
- ④先輩方にご教授いただきながら、日々成長
できるように頑張ります。

かみのやま病院



阿部 和輝

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②山形学院高等学校
- ③アクアリウム
- ④社会人1年目らし
く何事にも挑戦し、
様々な経験を積んでいきたいと思ひます。

山形県立中央病院



岩瀬 千晴

- ①静岡県立大学
2025年卒業
- ②山形東高等学校
- ③KPOP、読書
- ④自己研鑽を忘れず、
責任感を持って勤
めていきます。よろしくお願ひ致します。

山形市立病院済生館



鵜浦 史江

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②岩手県立高田高等学校
- ③御朱印集め、パン
屋巡り
- ④日々の業務に真摯
に取り組み、患者様の信頼に
応えられる薬剤師を目指します。

山形市立病院済生館



長谷川 凌

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②寒河江高等学校
- ③旅行
- ④少しでも早く1人
前の薬剤師となれ
るよう頑張ります。

山形大学医学部附属病院



杉山 雄紀

- ①北陸大学
2020年卒業
金沢大学大学院
2025年卒業
- ②静岡聖光学院高等
学校(静岡県)
- ③旅行によく出てます。
- ④縁もゆかりもない山形で、
新たな環境で挑
戦したいです。

新人紹介

- ①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年
②出身高校 ③趣味 ④抱負

山形大学医学部附属病院



中川 肇

- ①城西大学
2025年卒業
- ②山形中央高等学校
- ③キャンプ
- ④生まれ育った山形
で薬剤師として働

けることに感謝しております。日々の業務に全力で取り組み、信頼される薬剤師を目指します。

山形大学医学部附属病院



福井 愛佳

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②山形東高等学校
- ③読書
- ④自己研鑽を怠らず、
山形の医療に貢献

できるよう頑張ります。

置賜エリア

公立置賜総合病院



伊藤 雅茂

- ①東北医科薬科大学
2025年卒業
- ②米沢興譲館高等学校
- ③ゲーム・音楽
- ④日々たくさんのこ
とを学び、成長し

ていきたいです。

公立置賜総合病院



舟山 莉央

- ①岩手医科大学
2024年卒業
- ②長井高等学校
- ③観劇・旅行
- ④日々謙虚に学ぶ姿
勢を忘れず、患者

様や他職種から必要とされる薬剤師を目指します。



健康食品相談窓口開設後の現状と今後の展望

山形済生病院 薬剤部 小林 正人

「健康食品」とは、健康の維持・増進を期待して摂取する食品全般を指す俗称であり、法律上の定義は存在しない。厚生労働省の調査によると、20歳以上の健康食品の利用率は約4割（38.9%）であり、約2割（19.4%）は医薬品と併用していることが報告されている¹⁾。

2024年3月、健康食品の主成分ではなく、製造過程で混入した成分が原因と考えられる重大な健康被害が発生した（いわゆる「紅麹サプリメント問題」）。この出来事は、多くの利用者が健康食品の摂取について考え直すきっかけになったと思われる。

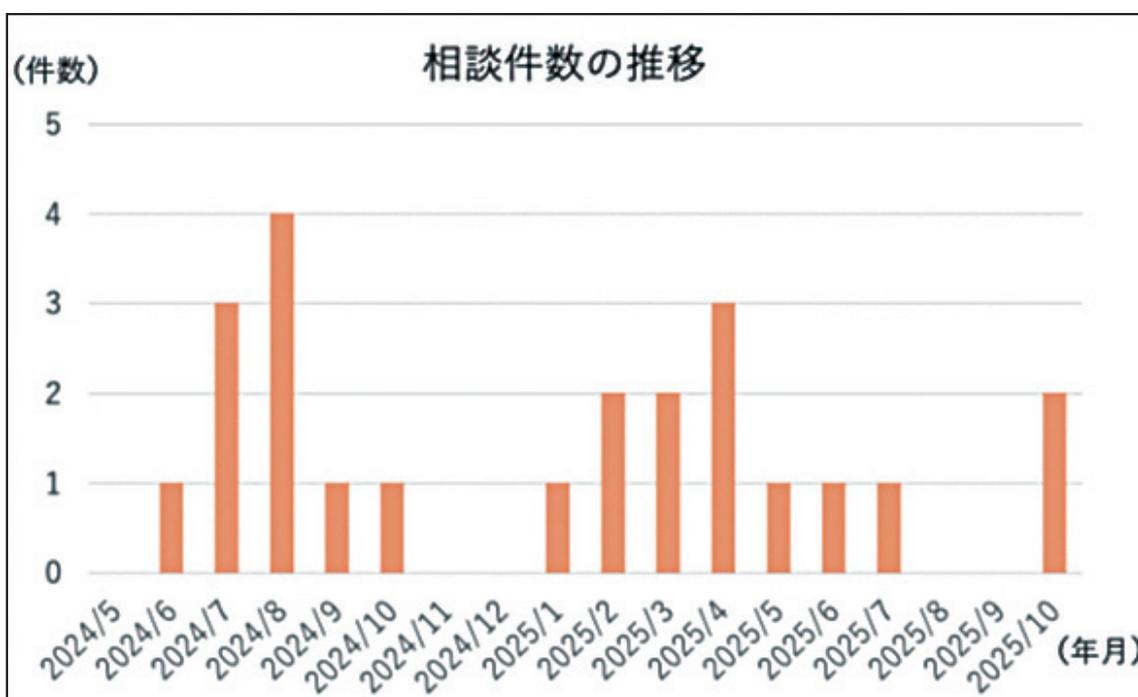
健康食品に関する公的な相談窓口として、内閣府の食品安全委員会や公益財団法人日本健康・栄養食品協会などが、電話やウェブによる相談を行っている。しかし、利用者が最も安心できる環境は、対面で相談できる身近なかかりつけの医療機関であると考えられる。また、健康食品の安全性や有効性、特に医薬品との相互作用について調査・回答することは、薬剤師の責務である。そこで、山形済生病院（以下、当院）薬剤部ではこの責務を果たすべく、2024年5月に薬剤師主導の健康食品相談窓口を開設した。本稿では、窓口開設後の現状と今後の展望について報告する。

健康食品相談窓口の概要

- ・開設日：2024年5月16日
- ・時間：開設時は平日9:00~16:00 2025年4月より毎週木曜日9:00~16:00に変更
- ・対象：開設時は当院の入院患者および外来患者 2025年4月より誰でも利用可能に拡大
- ・対応者：薬剤部内の栄養チーム所属の薬剤師4名
- ・費用：無料
- ・周知方法：全入院患者の退院指導時に当院薬剤部作成の案内用紙（図1）を配布
外来患者に対しては院内の掲示板や薬剤部窓口にて周知
その他、病院のホームページに掲載、地域の集会や回覧板などで案内
- ・予約方法：開設時は電話などで事前に連絡を受け薬剤師外来を予約
2025年4月より毎週木曜日に予約なしで相談可能とした
- ・調査方法：参考資料として、一般社団法人日本健康食品・サプリメント情報センター（Japan Health Food and Supplement Information Center, Jahfic）が管理する「健康食品・サプリ [成分] のすべて ナチュラルメディシン・データベース日本対応版 第7版」（日本医師会/日本歯科医師会/日本薬剤師会, 2022, 同文書院, 図2）の書籍版を購入した。本データベースは厚生労働省が紹介する情報源の一つであり、アメリカで編纂されているNatMedを原典としている。その他、消費者庁作成の「健康食品Q&A」を参考とした。

以下、2024年5月16日～2025年10月28日における結果について報告する。

対象（名） 入院患者	7
外来患者	16
性別（名） 女性	15
男性	8
年齢（歳）の中央値（範囲）	74（30-89）
健康食品の種類（数）の中央値（範囲）	2（1-6）
医薬品の種類（数）の中央値（範囲）	6（0-11）



相談件数と利用者の特徴

相談件数23件という結果は、「紅麹サプリメント問題」という大きな出来事があった割には少ないというのが率直な印象である。利用者の特徴として、高齢者（中央値74歳）や医薬品多剤併用者（中央値6種類）が多いことが判明した。これは健康への意識や服薬管理の必要性が高い層が、薬剤師の専門性に期待して相談に訪れていることを示唆している。

相談件数増加に向けた課題

相談件数増加が最も重要な課題であると考え、2025年4月より対象を「当院の入院患者および外来患者」から「誰でも利用可能」に拡大し、地域の集会や回覧板などで案内を行ったが、明らかな相談件数増加には至っていない。原因として、単なる相談窓口の周知・認知不足に加え、「健康食品は健康に良いもの」として自らの判断で購入しており、そもそも不安に感じていない層が存在する可能性が考えられる。また、最近では「紅麹サプリメント問題」は風化が進み、人々の記憶から薄れつつあることも否めない。

開設継続に向けた課題

診療報酬上の算定可能な加算はないため病院としての収益はなく、参考書籍（1冊約11,000円、オンライン版は年額約13,000円）の費用がかかっているのが現状である。さらに、相談1件あたり約30分を要する時間的リソースの課題もある。その他、参考書籍に記載がない場合の次の情報源を決めておく必要性や、回答の質の担保や標準化のため「安全性、有効性、相互作用の順で回答する」「効果が感じられない場合は止めてみることも提案する」といった回答のテンプレート作成が今後の課題である。

今後の展望

「薬剤師に相談して安心した」といった声は寄せられている事実を踏まえ、今後は薬剤師が対応する意義を明確にしていく必要がある。具体的には、薬剤師が最も貢献できるのは、健康食品または医薬品を新規で開始する場面における相互作用の評価であると考えられる。

また、近隣の保険薬局ではより頻繁に相談があると伺っている。地域連携の一環として、相談内容や調査方法を共有し、地域全体の健康食品相談の質向上に貢献できる取り組みとして確立できれば幸いである。

【引用】

- 1) 千葉剛, 他:「健康食品」の安全性・有効性情報の活用 —消費者における健康食品の利用実態調査—. 令和3年度「健康食品」の安全性・有効性情報データベースを活用した健康食品の安全性確保に関する研究(21KA2002)報告書:136-152.
- 2) 一般社団法人 日本健康食品・サプリメント情報センター:書籍版.
<https://jahfic.or.jp/nmdb/nmdbbook> (最終アクセス:2025年10月28日)
- 3) 一般社団法人 日本健康食品・サプリメント情報センター:書籍サンプル.
https://jahfic.or.jp/img/nmcd7_sample.pdf (最終アクセス:2025年10月28日)

DI 実例報告

日本海総合病院
TEL 0234(26)2001

Q：感染性心内膜炎で入院し、ワーファリン開始となったが、以前から飲んでいたプロポリス(滋養強壮目的)は継続しても問題ないか？

A：プロポリス併用によりワーファリンの作用低下が認められた例がある。ワーファリン服用期間はプロポリス中止するよう説明した。

参考：warfarin適正使用情報

Q：ジクトルテープについて

①入院中のお風呂の時間はまちまちとなってしまうため、貼付中の場合はどのように対応するのが良いのか？

②剥がれやすいようだが、対策はあるのか？

A：

①自宅では入浴時間を考慮して貼付開始時間を設定していただくが、入院中で入浴時間が定まらない場合は、入浴中は上からテープで保護してもらいやり方が推奨される。(水に濡れた場合に同等の効果が得られるかについてはデータなし)

②貼付部位としては上腕が剥がれにくい傾向あり。貼付した後にその部分をもう一度しっかり手で押し付けることで剥がれにくくなる。

問い合わせ先：久光製薬

Q：潰瘍性大腸炎でメサラジン服用中だが授乳は可能か？

A：メサラジン、サラゾスルファピリジンは腸管からの吸収は少なく、胎盤を介する胎児への移行もわずかである。ヒトでのデータは少ないが、現在までに催奇形性を示唆する報告はない。

メサラジン、サラゾスルファピリジン等は授乳中に使用した患者さんで、ごくまれに赤ちゃんに下痢症状がみられたと報告あり。多

くの赤ちゃんでは問題は見られておらず、症状を認めても中止することで速やかに改善したと報告されており、授乳中に安全に使用できると考えられる。

参考：基礎からわかる妊婦・授乳婦のくすりと服薬指導

妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ知っておきたい基礎知識 Q&A

Q：ラジカット内服懸濁液を誤嚥しやすい患者さんに服用させるため、とろみをつけることは可能か？

A：当院のとろみ剤はデキストリンを主成分とするもので消化吸収される。

ラジカット内服懸濁液のQ&Aでは、カロリーを有する食品と混ぜて服用しないよう記載あり。

参考：ラジカット内服懸濁液Q&A

Q：イムデトラ点滴静注を使用する場合、フィルター通して投与しても問題ないか？

A：イムデトラの臨床試験ではフィルター用いておらず、フィルター透過性のデータなし。添付文書上で制限があるわけではないため、各施設での判断となる。

問い合わせ先：アムジェン

Q：ヒフデュラ配合皮下注投与期間中に中止せざるを得ない状況になった場合、投与スケジュールはどうなるのか？

A：全身型重症筋無力症の場合、ヒフデュラ配合皮下注を1週間間隔で4回投与し、これを1サイクルと考える。

もしもその4回投与中に何かあって中止する場合はスキップとして考える。

1コース終了後、症状増悪あり2コース目投与する場合は、最低2週間は間隔あける必要あり。

例) 1回目は問題なく投与したが、その後コロナ感染してしまい2回目、3回目はスキップ。4回目は予定通り投与し、この1サイクルは終了。その後2週間隔あけて2コース目開始。

問い合わせ先：アルジェニクスジャパン

DI実例報告

鶴岡市立荘内病院
TEL 0235(26)5111

Q：ラクリミン[®]点眼液0.05%の販売中止に対する対応

A：ラクリミン[®]点眼液と同成分の製剤にベノキシール[®]点眼液0.4%があるが濃度と適応症が異なるため代替は推奨されない。

(適応症)

ラクリミン[®]点眼液：分泌性流涙症 ベノキシール[®]点眼液：眼科領域における表面麻酔
ベノキシール[®]を希釈してラクリミン[®]と同濃度にして使用している施設もある。

分泌性流涙症に対する効果については眼科医の中でも評価が分かれており、目の違和感に対する不定愁訴に使用されている場合が多数ある。(以上メーカーより情報提供)

→以上について当院眼科医に情報提供し、当院では中止し代替の対応は不要と判断した。

Q：アクテムラ[®]注の周術期の取り扱いについて、術前の休薬期間に推奨はあるか。

A：休薬を検討してもよいが、明確な休薬期間を定めているガイドライン等の文献はないため、処方医の判断で対応。(メーカーより情報提供)

Q：メサペイン[®]錠を分包した場合に遮光は必要か。

A：光に対する過酷試験(保存条件：120万Lx・hr、200W・hr/m²*)において、裸体品では類縁物質が増加し規格外となった。その他の項目は規格内であった。

また、湿度に関する過酷試験(保存条件：25℃/90%/RH)において、裸品では保存1ヶ月より磨損度の上昇及び高度低下を認めた。その他の項目は規格内であった。

※白色蛍光ランプの場合：1000lxで約50日

間、2500lxならば約20日間(吉岡澄江：PHARMTECH JAPAN,13(7),p.7(1997))

Q：バイアスピリン[®]錠とテルミサルタン錠の一包装内での接着事例

A：上記が認められたため、使用に問題がないか調査を実施。文献検索を行ったところ、バイアスピリン[®]の成分量および溶出率が低下する可能性があるため使用には注意が必要と考えられる。

(参考文献：医療薬学44(7)333-340(2018))

Q：リウマチでアクテムラ[®](トリシズマブ)を投与中の患者の化学療法(乳癌TC療法)は併用可能か？

A：休薬の必要性など明記されている文献はないため明確な基準はない。

IL-6自体が癌細胞への作用があると考えられていることから継続を選択する場合がある。一方で、好中球減少の程度が大きい化学療法については、相乗的な免疫抑制の可能性があるためアクテムラ[®]投与を中止するなど、ケースによって対応が異なる。

アクテムラ[®]継続によると考えられる感染事例が確認されている一方で、アクテムラ[®]中止による原疾患の増悪事例も報告されているため、症例ごとの個別の検討が必要。

Q：アミオダロンとリクシアナ[®]を併用する場合、リクシアナ[®]を減量する旨の記載が添付文書にあるが、他のDOACは減量の必要はないのか。

A：エンドキサバン(リクシアナ[®])とダビガトラン(プラザキサ[®])に関しては減量が必要(P糖タンパクの影響)。リバーロキサバ

ン（イグザレルト[®]）とアピキサバン（エリキューズ[®]）は減量不要と考えられる。（各製剤添付文書参照）

Q：ニューベクオ[®]錠内服による好中球減少に対して、G-CSF製剤の使用は可能か。

A：ニューベクオ[®]単独療法での好中球減少はわずかに報告がある（2%未満）。メーカーの把握している症例ではG-CSF製剤は使用せずに、ニューベクオ[®]の休薬のみで対応した。今回の症例は発熱を伴わない好中球減少であり、日本癌化学療法学会 がん診療ガイドラインではG-CSF製剤の使用を行わないことを弱く推奨している。
以上から、今回の問い合わせでは積極的な使用はすすめられない旨を回答した。
（メーカー問い合わせ・日本癌化学療法学会がん診療ガイドライン 支持療法G-CSF CQ42）

Q：フェジン[®]注投与時のインラインフィルター使用について。フェジン[®]注はフィルターを通して投与してよいか？

A：フェジン[®]のコロイド粒子は6～8nm前後であり、粒子径の大きさから考えるとインラインフィルター（通常220nm）は通過する。しかし、フィルター通過後のコロイドの安定性が不明なこと、フィルターを構成している繊維に着色が確認されていることから、フィルターを避けての投与することが望ましい。

Q：ミノマイシン注投与でのインラインフィルターの黒色着色

※中心静脈ルートからミノマイシン注投与中患者でのインラインフィルターの黒色着色事例が2件続いたため調査。
（1例目；ヴィーンD500ml+10% NaCl20ml、LVFX500mg、MINO100mg+NS100mg / 2例目；エルネオパ2号1000ml、CMZ 1g+NS100ml、MINO100mg+NS100ml ※灰色→経時的に黒色に変化）

A：高カロリー輸液とミノマイシン注の併用に

よるフィルターの着色事例（黄色・黄褐色・黒色）の報告があるが詳細は不明。ミノマイシンはMg・Mn・Ca・Fe・VB類と配合すると力価低下することが知られており、配合しないことが望ましい。※内服ミノマイシンと2価イオンの併用でキレート形成の報告はあるが注射でのデータは不明。

金属イオンが配合された輸液ルートを使用する場合は生理食塩液などで前後フラッシュ対応するか、別ルートの選択を提案する。

（メーカー問い合わせ・薬の相互作用としくみ（日経BP社））

Q：小児潰瘍性大腸炎のペントサ[®]の用量について添付文書では小児の上限は2,250mgと記載があるが、ガイドラインでは成人と同じ4,000mgと記載されている。4,000mg投与できるか？

A：潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和6年度改訂版）には4g/日と記載されているが、メーカーでは添付文書の容量を超える回答がないようにとしか答えられなく、医師の判断によるだろうと。その他、小児用の医学雑誌や今日の小児治療指針第17版にも4g/日の使用について記載があり、その旨を主治医に情報提供し、ペントサ[®]顆粒4,000mg分2朝夕食後で開始となった。
潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針（令和6年度改訂版）

Q：ニフレック[®]にとろみをつけてもよいか？

A：推奨しない。とろみにより、腸内への停滞、ガス発生などが考えられる。添付文章に「本品の溶解液に他成分や香料を添加した場合、浸透圧や電解質濃度に変化したり、腸内細菌による可燃性ガス発生する可能性があるため、添加しないこと」となっている。また、市販のとろみ剤の成分に糖質類が含まれる場合、消化管に残留する可能性もあるため、検査前の飲用は避けるべきと考えられる。（メーカー問い合わせ）

Q：リドカインテープを剥がした後、効果はどのくらい継続するのか？

A：健康成人男子の左右手甲皮膚に、あらかじめ確認選定した痛点が中央になるように、本剤1枚を30分あるいは60分間貼付し、除去後30分毎に痛点をマンドリン線で圧して痛みを問診した結果、本剤の作用持続時間は次のとおりであった。

- ・30分間貼付：102分
- ・60分間貼付：96分

リドカインテープ18mg「YP」のインタビューフォームに記載されていなかったが、先発品のペンレス[®]テープ18mgのインタビューフォームP.12、VI.薬効薬理に関する項目、2.薬理作用、(3)作用発現時間・持続時間、2)作用持続時間の項目に記載があり参考とした。

参考文献：ペンレス[®]テープ18mgのインタビューフォーム

Q：エレンタール[®]のグレープフルーツのフレーバーはCYP3A4による代謝に影響を与えるか？

A：果汁を含まないためCYP3A4に影響は与えない。

エレンタール[®]のグレープフルーツフレーバーがCYP3A4による薬物代謝に影響を与える可能性は、極めて低いと考えられる。

参考：メーカー回答

Q：エレンタール[®]フレーバーはエレンタール[®]1包(80g)につき何包まで使用できるか？

A：成分栄養剤でありそのままでは不味くて飲むのは困難である。エレンタール[®]1包につきフレーバー2包まで使用可能。また、異なる味を混ぜることも可能。メーカーおススメはヨーグルト味とグレープフルーツ味が評判よかったとのこと。因みに単味では青りんご味の人気があるそうだ。

参考：メーカー回答

DI実例報告

北村山公立病院
TEL 0237(42)2111

Q：患者の持参薬を確認したところ、一包化されたエンレスト錠100mgにひび割れが認められた。

ひび割れの報告や、割れやすい条件などはあるか？

A：有効成分は吸湿性が高く、相対湿度60%を超えるとひび割れ、崩壊を起こしやすいというデータがある。PTPシートやバラ包装の容器から出してどのくらいの期間でひび割れが起きやすいかというデータはない。

問い合わせ先：ノバルティスファーマ(株)

Q：H.Pyloriの3次除菌法を教えてください。

A：日本ヘリコバクター学会では、H.Pylori感染の3次除菌法として、PPI+AMPC+STFX（保険適応外）を推奨している。クラビット（LVFX）に対する耐性率は40%程度であり、グレースビット（STFX）に対する耐性率は7.7%との報告があり、LVFX→STFXへ変更された。

問い合わせ先：H.Pylori感染の診断と治療ガイドライン2016改訂版（日本ヘリコバクター学会）

Q：ニューキノロン系抗菌薬であるクラビット点滴静注とラスビック点滴静注の違いを教えてください。

A：クラビット点滴静注は、抗緑膿菌作用のある広域スペクトラム抗菌薬で、適応症からも全身に効果を示すことが分かる。一方、ラスビック点滴静注は肺をターゲットとした薬で、抗緑膿菌作用のない狭域スペクトラム抗菌薬になっている。（抗緑膿菌作用がないため、緑膿菌の耐性化の心配がない。）

2024年の肺炎ガイドラインでは、重症度が低

い方から使える薬に位置づけられている。

また、嫌気性菌にも効果が認められており、肺膿瘍に適応がある。（クラビットにはない）腎機能での用量調整は必要ないが、肝機能障害に注意が必要。

問い合わせ先：杏林製薬(株)

Q：透析患者のイーケプラ点滴静注500mgの最大投与量と用法はどのようになっているのか。

A：透析患者における最大投与量は1日1回1000mgとなっている。透析による除去効率は80%ほどのため、透析日は透析後の補充用量として500mgを追加する。また、1回500mg1日2回では透析後の補充用量の調節が複雑化するため、1日1回1000mgが望ましい。

問い合わせ先：ユーシージャパン株式会社

Q：イーフェンバッカル錠を4錠まとめて片側の歯茎で溶解させることは可能か？

A：4錠を片側の歯茎に挟めて溶解させたデータはない。メーカーとしては、「左右2錠ずつ合計4錠」と「同一用量の1錠」の製剤の同等性しか試験していないとのこと。なるべく4錠ではなく、大きい規格で少ない錠数で投与できるものを使用するようにとのこと。

問い合わせ先：大鵬薬品工業(株)

Q：サインバルタカプセル20mg服用後に血圧上昇が認められた症例はあるか？

A：臨床試験で血圧上昇を認めた症例が報告されている。鎮痛薬として使用した症例では報告はなく、うつ病治療目的で使用した753例のうち、19例で血圧上昇が認められた。

そのうち16例で投与を継続し、14例は改善を認めたとのこと。

問い合わせ先：塩野義製薬(株)

Q：炭酸水素ナトリウム錠（制酸剤）とフェロ・グラデュメット錠は併用によりフェロ・グラデュメット錠の作用減弱の可能性があるが、投与間隔はどれくらい開ければよいか？

A：同時内服しても鉄の吸収に影響はないことがわかったとのこと。(2025年2月 社内資料)

問い合わせ先：ヴィアトリス製薬(株)

Q：ベンリスタ皮下注200mgオートインジェクターの常温で保管した場合の安定性について知りたい。

また、投与を忘れた場合の投与スケジュールについて、取り決めはあるのか？

A：本品の保存は2～8度となっているが、累積で12時間までであれば投与可能となっている。

常温に戻した後に使用せず、再度冷蔵保存し、それを繰り返しても常温の時間がトータル12時間までなら使用可能。投与を忘れた場合は、前後1日なら投与可となっている。それよりも過ぎた場合の臨床データはないため医師の判断で投与を検討すること。

問い合わせ先：グラクソ・スミスクライン(株)

Q：ランタスXR注ソロスターからインスリン グラルギンBS注への変更では、低用量での切り替えを考慮することとあるが、具体的にはどのくらい低用量にすると良いのか？

A：添付文書に記載の通り、患者の状態を診て主治医の判断で単位数を減らしてもらう。

参考として、米国の添付文書では切替の際に80%の減量を推奨している。

今回のケースではランタスXR注ソロスター1日10単位使用中の患者であったため、インスリン グラルギンBS注では8単位の投与を推奨するとのこと。

問い合わせ先：サノフィ(株)

Q：ニトログリセリン静注25mg/50mLシリンジ「TE」について、シリンジポンプのメーカー設定で推奨されているのはどこ？

A：シリンジのメーカーについては非開示情報になっているため教えられないが、汎用性の高い「テルモ」の設定でお願いしたいとのこと。

問い合わせ先：トーアエイヨー(株)

Q：アデノシン負荷用静注60mgシリンジ「FRI」について、シリンジポンプのメーカー設定で推奨されているのはどこ？

A：「テルモ」の設定を推奨しているとのこと。

問い合わせ先：PDRファーマ

Q：最近の医薬品の不安定な状況を鑑み、医薬品の資源の有効活用や減耗損を減らすために他の病院に当院で使用しない医薬品を引き取って貰ったり、他の調剤薬局と物々交換をしたり出来ないのか？

また医薬品販売業の許可を取れば病院でも医薬品を販売ができるのか？

A：基本的に病院は医薬品販売業ではないので、薬局や病院に医薬品の販売はできない。(薬機法第24条)逆に薬局(調剤薬局)は病院に医薬品を販売することができる。

山形県健康福祉部保健薬務課に問い合わせたところ、昨今の医薬品の不安定な供給状況を考えれば、上記の法律で厳しく規制はされているものの、患者に迷惑を掛けないように病院の医薬品を一時的に貸して後に返して貰うといった対応に関しては黙認しているのが現状である。

一方で、病院から他の病院や調剤薬局に医薬品を販売したり、物々交換で医薬品をやりとりすることは薬機法で規制されており、事情はお察しするがが県の立場から「良いです。」とは言えない。その辺の事情はお察しくださいとのこと。

医薬品販売業の許可については、病院の建物の中に売店のような医薬品を販売できる施設が併設されていてそこに許可を与えることは

考えられるが、病院の調剤所に許可を与えるものではなく、医療法の観点からも営利目的で販売業の許可を与えられない可能性が高いと。仮に許可を与えられたとして、医薬品販売業には管理薬剤師を置く必要があり通常の薬剤部業務はできないのでご承知置きくださいとのこと。(申請料も数十万円必要)

問い合わせ先：山形県健康福祉部保健薬務課

DI実例報告

山形大学医学部附属病院
TEL 023(633)1122

Q：腎障害患者にイマチニブの減量は必要か？

A：不要。

<参考文献>

腎機能別薬剤投与量POCKET BOOK第4版

Q：ゾレドロン酸で筋肉痛の副作用あるか？

A：急性期反応（本剤投与後3日以内に発現し、通常は数日以内に回復する）に該当する副作用としてみられることがある。

<参考文献>

ビスホスホネート製剤の急性期反応に対する対策について（日本骨代謝学会）

Q：タイサブリ[®]点滴静注300mgの投与時にフィルターは使用可能か？

A：テルモ製のテルフュージョン輸液セットPVCフリー（0.2 μ 孔径）であれば吸着せずに通過したデータあり。

<参考>

メーカー回答

Q：ユナシン[®]アレルギーあり。腎生検時にケフラール[®]使用予定だったが、代替薬はなにがいいか。

A：グラム陽性菌をターゲットとした感染予防において、 β ラクタム薬のアレルギーがある場合はクリンダマイシンが代替薬として推奨されている。

<参考文献>

術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン（日本化学療法学会/日本外科感染症学会）

Q：アルブミンの投与速度に制限はあるか。

A：添付文書上では規定がありませんが、一般

的に成人の場合は、下記の速度が推奨されている。

5%製剤：5mL/分以下

20%、25%製剤：1mL/分以下

負荷するアルブミンを1時間あたりに10g前後に制限して、循環系に過剰な負担をかけないように配慮することが望ましいとされている。

<参考文献>

アルブミン製剤適正使用ハンドブック（日本血液製剤機構）

Q：バリキサ[®]錠は簡易懸濁して投与可能か？

A：可能。（内服薬 経管投与ハンドブック第4版（じほう）では不適だが、下記の文献を参考に可能と判断）

<参考文献>

バルガンシクロピルの簡易懸濁法適応に向けての基礎的研究（医療薬学 38(8)534-539 (2012)）

Q：フィンテプラ[®]内用液は他の液剤と混合可能か？

A：混合不可（本剤を他剤と混合した際の安定性や相互作用に関するデータなし）。

<参考文献>

フィンテプラ[®]内用液 適正使用ガイドQ&A

Q：アウイクリ[®]注フレックスタッチは「本剤は投与後に血漿中に移行した後、血中のアルブミンに結合することで活性を示さない状態となり、その後、緩徐にアルブミンと解離し、インスリンレセプターと結合することで、血糖降下作用が持続する」と作用機序が示されているが、低アルブミン血症の患者は低血糖

が起こりやすかったなどの情報はあるか？

A：調査時点では低アルブミン例での報告なし。現時点で分かる情報では、低アルブミン血症患者で低血糖の発現頻度が高くなる傾向はないと考える。理由は下記。

- in vitroの観点（文献①より）
- 各アルブミン分子は、少なくとも4つの高親和性脂肪酸結合部位と、さらに中間親和性結合部位を持っている
- 定常状態におけるインスリン・イコデクの最大血清濃度（ $<500\text{nmol/L}$ ）は、血清アルブミン濃度（ 600000nmol/L ）よりかなり低い
- したがって、インスリン・イコデクの濃度が高い場合でも、循環アルブミン・プールには、インスリン・イコデクの血清濃度に比べて2000倍以上の結合部位が過剰に存在する。
- アルブミン尿、内在性因子、競合的なタンパク質結合によるインスリンとアルブミンとの置換はごくわずかであり、インスリンの活性に臨床的な影響を与えることはない

- in vivoの観点（文献②より）
- 低アルブミン血症としての報告例なし。
- 臨床試験の結果からは、アルブミンが低い肝障害患者について言及されており、肝障害の有無で低血糖の発現が高くなる傾向は認められていない
- 上記の結果は、一部の臨床試験では重篤な肝障害は除外されていること、症例数が少ないことに留意が必要
- したがって、アルブミンが低くなる肝障害患者やネフローゼ症候群患者について、引き続き情報収集することが重要

<参考文献>

文献①：Molecular and pharmacological characterization of insulin icodec: a new basal insulin analog designed for once-weekly dosing (BMJ Open Diabetes Res Care. 2021 Aug; 9 (1))

文献②：アウイクリ®注 審査報告書

DI実例報告

山形ロイヤル病院
TEL 0237(43)8080

Q：带状疱疹の重症例に注射薬と外用薬の併用は可能か。

A：支払基金に問い合わせ、抗ウイルス薬の併用投与（带状疱疹）について《令和7年1月31日》、の回答を得た。

【投薬】

抗ウイルス薬の併用投与（带状疱疹）について

《令和7年1月31日》

○取扱い

带状疱疹に対する次の抗ウイルス薬の併用投与は、原則として認められる。

- (1) ビダラビン（アラセナーA軟膏等）【外用薬】とアシクロビル（ゾビラックス錠等）【内服薬】
- (2) ビダラビン（アラセナーA軟膏等）【外用薬】とバラシクロビル塩酸塩（バルトレックス錠等）【内服薬】

(3) ビダラビン（アラセナーA軟膏等）【外用薬】とアシクロビル（ゾビラックス点滴静注用）【注射薬】

(4) ビダラビン（アラセナーA軟膏等）【外用薬】とビダラビン（アラセナーA点滴静注用）【注射薬】

○取扱いを作成した根拠等

带状疱疹に対する抗ウイルス薬の治療は、早期に全身投与を開始する必要がある、軽症・中等症例に内服薬を使用するが、免疫機能が低下している患者や重症例には注射薬を投与する。重症度や治療効果に応じて、内服薬、外用薬、注射薬を組み合わせた併用投与を実施する場合がある。

以上のことから、带状疱疹に対する上記抗ウイルス薬の併用投与は、原則として認められると判断した。

支払基金・国保統一事例

DI実例報告

山形市立病院済生館
TEL 023(625)5555

Q：メサペイン錠について

添付文書に、「本剤開始前・投与中は定期的に心電図検査および電解質検査を行い患者の状態を十分に観察すること。特に1日量が100mgを超える前およびその1週間後、QT延長を起こしやすい患者では投与量が安定した時点で心電図検査を行うのが望ましい」と記載されているが、QT延長の検査は必須か。

A：必須ではなく、個々の患者の状態を見ながらの判断となる。

問い合わせ先：塩野義製薬

Q：メノエイドコンビパッチについて

添付文書に「本剤を半分などに切って使用しないこと」と記載されているが、半分に切ることは可能か。

A：1枚を3～4日ごとに1回（週2回）下腹部に貼付して使用する薬剤で、本剤を半分に切って使用することは想定していない。なお、本剤はマトリックスタイプで均一であり、金属も入っていないため、物理的に切ることは可能ではある。

問い合わせ先：久光製薬

Q：ステララ皮下注について

①分子量が大きいため母乳への移行は少なく、児が経口摂取しても生体内利用率が低いことが推測されるが、授乳中の投与データはあるか。

②ステララを妊娠19週まで投与していた妊婦から出生した児では、生後6か月まで生ワクチンの接種は避けた方が良いのか。

A：

①投与継続中の授乳は可能であったとの症例報告がある。

②避けた方がよい。リウマチのガイドラインにも生後6か月まで避けるべきと記載されている。

問い合わせ先：田辺三菱製薬

Q：アブリスボ筋注用について

①添付文書に妊娠28～36週での投与が望ましいと記載されているが、妊娠36週付近では効果が得られなくなる場合もあるのではないか。

②定期接種や助成についての動きはあるか。

A：

①有効となるまで2週間必要で、それよりも短期間では十分な抗体の移行が期待できない。妊娠32～33週で使用していることが多い。

②自治体によっては一部助成を行っているところもある。定期接種や全国的な助成はまだ実施の見込みなし。

問い合わせ先：ファイザー

Q：ネオーラルカプセルについて

添付文書の副作用に多毛（5%以上）と記載されているが、機序は。また、血中濃度と関係はあるのか。

A：詳細は分かっていないが、毛包への直接作用（アポトーシス関連）ではないかと考えられている。毛の成長期から退行期への誘導を阻害、また休期から成長期へ誘導することが考えられる。

血中濃度との関連はわかっていない。

問い合わせ先：ノバルティスファーマ

Q：ミルセラ注シリンジについて

抗エリスロポエチン抗体の測定を依頼することは可能か。

A：ミルセラ投与中で、下記に該当している場合

- ・骨髄穿刺で赤芽球癆と診断された場合
 - ・貧血原因精査で赤芽球癆が疑われた場合
 - ・急激なHb低下（3 g/月以上）または網状赤血球1万以下、かつWBC, PLT低下なし
- 製薬会社へ申請後、安全管理部署で検査が必要か判断する。

問い合わせ先：中外製薬

**Q：ダルベポエチンアルファ BS注について
抗エリスロポエチン抗体の測定を依頼することは可能か。**

A：患者情報の聞き取りを行い、副作用と判断されれば検査可能。検査結果が明らかになるまで1ヶ月ほどかかる。

問い合わせ先：三和化学研究所

Q：ロゼバラミン筋注用について

①投与スケジュールは1日以上空ければよいとのことだが、家族など投与者の都合によって前の週と別の曜日にずれる等は許容範囲ということでしょうか。

②手技が筋注となっている理由は何か。他のデバイスの検討などはあるか。

A：

①許容範囲内。1日以上の間隔を空けて週2回であればよい。

②医師主導研究において一番効果があったのが筋注投与であったと思われる。デバイスについては今後検討予定。

問い合わせ先：エーザイ

Q：リベルサス錠について

①用法として、1日の最初の食事または飲水の前に空腹の状態での服用が必要があるが、服用前の絶食時間はどの程度空ける必要があるか。夜中に飲水してしまった場合の対応はあるか。

②服用後少なくとも30分は飲食や他の薬剤の経口摂取は避ける必要があるが、臨床試験のデータでは服用後の絶食時間が長いほど、セマグルチドの血中濃度の上昇が認められてい

る。服用後の絶食時間の違いで薬効や副作用に影響はあるか。

A：

①空腹時の絶食時間は6時間以上が目安。服用前（夜中）に飲水してしまった場合の対応として推奨している事項はない。主に固形物が胃に残っている場合の影響が大きいため、飲水に関しては多量でなければ影響は少ないと思われる。

②服用後の絶食時間が長いほど、セマグルチドの血中濃度の上昇が認められ、臨床上、効果が得られるという情報はある。絶食時間が長いほど副作用の頻度が上昇したという情報はないが、長期内服のデータがないため不明。

問い合わせ先：ノボノルディスクファーマ

Q：シングリックス筋注用について

添付文書に臀部への投与を避けるよう記載されているが、理由は何か。

A：明確な理由はない。臨床試験はすべて上腕三角筋部で投与している。おそらく臀部は脂肪が多く、座骨神経が近くにあり、神経障害を避ける意味でも適切な投与部位とは言えないためと考えられる。

問い合わせ先：グラクソ・スミスクライン

Q：モビコール配合内用剤について

経管からの投与は可能か。

A：施設判断になる。自社の試験では、モビコール配合内用剤LDを1包、規格量の水に溶解したところ、3Frチューブ及び8Frチューブを通過したというデータはある。

問い合わせ先：EAファーマ

Q：スキリージ点滴静注について

①添付文書に「混濁、変色または大きな粒子がある場合は使用しないこと」と記載があるが、レミケードのようなインラインフィルターを使用する記載がないのはなぜか。

②レミケードはインフュージョンリアクションが起こる可能性があり、初回投与時は心電図

モニターを使用しているが、スキリージは必要か。

A :

- ①臨床試験では、0.2 μ mのインラインフィルターを用いて投与している。しかし、日本の添付文書やFDAなど海外でもインラインフィルターの使用については記載していない。インラインフィルターの使用は必須ではなく、各施設の判断となる。
- ②特に決まりはなく、モニター使用の有無は各施設の判断となる。

問い合わせ先：アッヴィ

Q：イジユド点滴静注について

切除不能な肝細胞癌に対する投与が、初回の1回のみで良い理由は。

A：投与回数を変えて試験もしているが、1回投与の試験でキラー T細胞の増加が高いという結果が得られた。そのため1回投与のレジメンになっている。また、メモリー T細胞の半減期は8-15年というデータもあるため。

問い合わせ先：アストラゼネカ

Q：リムパーザ錠について

添付文書に乳癌の術後薬物療法の場合「投与期間は1年間までとする」と明記されているが、手術不能または再発乳癌で投与する場合、**投与期間の基準はあるのか。**

A：手術不能または再発乳癌で使用の場合、投与期間などの基準は設定されていない。そのため、病勢進行と判断されるまで使用可能。

問い合わせ先：アストラゼネカ

Q：ポマリストカプセルについて

腎機能低下者への減量基準はあるか。

A：減量基準は無いため、下記データを参照に施設判断で投与を検討。

臨床試験において、Ccr>60とCcr30～60の患者にてPd療法でポマリストを4mg使用した場合、副作用に差はなかったという報告がある。

問い合わせ先：ブリストル・マイヤーズスクイブ

DI実例報告

公立置賜総合病院
TEL 0238(46)5000

Q：アルブミン25%静注の投与はどれくらいの時間ですればよいか。

A：5%製剤：5mL/分以下、20%、25%製剤：1mL/分以下。投与速度は、負荷するアルブミンを1時間あたりに10g前後に制限して、循環系に過剰な負担をかけないようにしてください。

Q：中心静脈ルートでアミオダロンを投与する際、フィルターを通すことは問題ないか。

A：（メーカーより）複数社のフィルターを用いて透過性試験を行っており、いずれも投与量に影響を及ぼす吸着は認められなかった。フィルターを用いた投与に問題はないと思われる。

Q：グロブリン製剤を静注する際、使用する針は24ゲージを使用しても問題ないか。

A：一般的に静脈内注射で使用されている20～23Gの注射針をご使用ください。24Gでも投与は可能です。

Q：外来にてラスビック錠を処方し2日間内服後に入院した患者に対して、ラスビック静注を開始したい。すでに内服している状況だが、添付文書通りローディングドーズは必要か。

A：内服からの静注への変更の場合でも、ローディングドーズの投与が必要である。

Q：酢酸亜鉛の用法用量注意点に「投与開始時と用量変更時に血清亜鉛濃度の確認を行うこと」とある。検査が行われなかった場合に査定の対象となった事例はあるか。また服用中の亜鉛検査はどの程度求められるか。

A：添付文書通り定期的な確認を行うことは必

要だが、実際のところ検査の有無に関する査定の例は経験上ない。血液検査は通常1ヶ月おきがベストと思われるが、抜けてしまうこともあるので、少なくとも症状変化や薬効の確認を要するときには検査していただきたい。

Q：ガンシクロビル1日2回投与の患者へ、スキリージ点滴静注（初回）投与予定。点滴の順序に決まりはあるか。

A：メーカーより、薬剤同士の禁忌等には該当せず、順序については特に推奨はないため病棟運用、医師の指示で問題なし。順序はどちらでも可で他剤混合を避けていただくよう依頼。

Q：小児患者でエピペンを開始する。家・学校・学童用に3本処方したいが可能か。

A：全国的にひと月で2本までは可能とされている。3本処方だと査定対象となる可能性があるため、月をまたいで処方を分けてもらうのが望ましい。

Q：①ピヴラッツ点滴静注の投与日数制限について ②ピヴラッツの投与後、継続したい場合は？

A：くも膜下出血の発症第1日目（0病日）から投与を開始した場合は、発症第15日目（14病日）まで処方が可能になります。なお、最終の調製済み薬剤を投与してから24時間後に本剤の投与を終了してください。

Q：イベニティ皮下注使用中の患者に帯状疱疹ワクチン接種を行いたい。投与間隔等の規定はあるか？

A：本件についてのデータはなく、投与間隔等

の規定もない。しかし、同時投与の場合は副反応の原因薬が分かるように他剤とは離して投与する事が望ましい。

Q：シナジス筋注の対象で6ヶ月齢以下の新生児および乳児とは、6ヶ月を過ぎても対象になるか。(6ヶ月20日は対象か、6ヶ月経過した時点で対象外となるか)

A：6ヶ月齢以下においては7ヶ月齢を迎えるまでは使用して問題ない。(6ヶ月20日等は対象に入る)また、6ヶ月齢以下で1回目の接種を行った後、7ヶ月齢を超えた場合、その流行期間中は継続して使用できる。

Q：フェジン静注について希釈を行う場合、用時10～20%のブドウ糖注射液で5～10倍にすること。と記載されているが、5%や50%ブドウ糖液を用いた場合に影響はあるか。

A：フェジン静注においてはpH、濃度等の変化により、副作用の発現に寄与することが否定できないため、記載通りの希釈法で調製いただきたい。

Q：イベニティ皮下注を一定期間使用し、1年間継続する前に中止となった患者で、再開する場合、初回から1年経過した時点で終了となるのか、又は12回目まで使用できるか。

A：イベニティの有効性、安全性は添付文書の用法で確認されており、投与スキップが発生した際に12ヶ月で終了とするか、12回目まで行うか。について、どちらが望ましいかは回答しかねる。査定については、地域の審査機関の判断次第になると思われる。

Q：アルプロスタジル注を使用中の患者が整形外科手術を控えている。休薬は必要か。

A：・アルプロスタジルアルファデクス注「タカタ」(高田製薬より返答)
休薬に関して検討した資料はない。先発品(プロスタンディン注：丸石製薬)の

情報より、半減期は8分程度であり、手術の1日前から休薬することを推奨された。

・アルプロスタジル注10 μ g「サワイ」(沢井製薬より返答)

先発品を含めて資料はない。アルプロスタジルアルファデクスと同様の考え方で、主治医判断と思われる。

以上より、休薬する場合は1日前で充分と想定される旨を返答した。

Q：ユルトミリス使用中であり髄膜炎菌ワクチン(初回はメナクトラ筋注)接種から約5年経過しており、追加接種の時期になった。臨床試験ではワクチン接種2週間は抗菌薬併用していたとの記載があるが、追加接種時のタイミングはどうすればよいか。

A：臨床試験ではワクチン接種前又は接種後2週間以内にソリリス・ユルトミリスを使用する必要がある場合、ワクチン接種後2週間が経過するまでは抗菌薬の投与をすることを規定していた。

(アレクシオンファーマMRより)

髄膜炎菌ワクチンの抗体は約5年は続くといわれているため、大まかな期間として5年ごとの追加接種が推奨されている。上記規定はあくまで初回の対応であり、追加接種の時点は抗体がある状態と推測されるため、抗菌薬投与を必要としない。実際のメンクアッドファイ筋注接種はユルトミリス投与と同日で問題ない。保険適応内である。

上記内容と前回とはワクチン自体異なるため改めて注意していただく旨をDrへ伝えた。

令和7年度山形県病院薬剤師通常総会

一般社団法人山形県病院薬剤師会（山口浩明会長・山形大学医学部附属病院）は令和7年6月7日（土）、山形テルサ（山形市）において、令和7年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会を開催しました。山口会長挨拶に続いて、早速、議長に延川正雄氏（山形市立病院済生館）を、副議長に市川勇貴氏（篠田総合病院）を選出し、議事に入りました。協議は、令和6年度事業報告、同決算報告、令和7年度活動計画案、同予算案が審議され、執行部の原案通り賛成多数で承認されました。また、役員任期満了に伴う改選について、山口会長から執行部による役員候補者が提案され、新理事（敬称略）西村雅次、富樫敦子、菅原拓也、押切佳代子、田中久美、稲毛あずさの6名を含む29名の理事と新監事（敬称略）渡邊茂の1名を含む2名の監事が賛成多数をもって選任されました。令和7・8年度 日本病院薬剤師会代議員の選出について、代議員として松田圭一郎氏、補欠代議員として西村雅次氏が、賛成過半数以上の挙手にて承認されました。名誉会員について、山口会長より、羽太光範氏、大石玲児氏を名誉会員へ推薦する旨、説明があり、賛成過半数以上の挙手にて承認されました。

引き続き、令和6年度薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞された羽太光範氏、岡崎千賀子氏、令和6年度薬事功労者山形県知事感謝状を受賞された鎌田敬志氏（鶴岡市立荘内病院）、國井健氏（北村山公立病院）が紹介されました。また、令和6年度山形県病院薬剤師会感謝状の対象となられた先生、永年会員（25年）表彰の対象となられた先生、第4回山形県病院薬剤師会学術大会にて優秀発表賞を受賞された先生、令和6年度優秀論文賞にて最優秀論文賞・優秀論文賞を受賞された先生が紹介されました。

令和7年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会

開催日時：令和7年6月7日(土) 15時00分～16時30分

場 所：山形テルサ 大会議室

次 第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議 事
 - 1) 協議事項
 - (第一号) 令和6年度事業報告
 - (第二号) 令和6年度決算報告
 - (第三号) 令和6年度会計監査報告
 - (第四号) 令和7年度活動計画(案)
 - (第五号) 令和7年度活動予算書(案)
 - (第六号) 役員改選について
 - (第七号) 令和7・8年度 日本病院薬剤師会代議員の選出について
 - (第八号) 名誉会員の推薦について
5. 表 彰
6. そ の 他
7. 閉会の辞

以 上

令和6年度事業報告

令和6年度は、令和5年度の役員改選後の2年目であり、継続して医療安全・医薬品適正使用に対する取り組みを実施するとともに、会員の研修機会の確保、学術レベル・薬学教育向上にむけた取り組み、会員相互の連携強化のための情報提供の推進を実施した。

令和6年7月25日からの豪雨に伴い、災害対策委員会が中心となって情報の収集を行い、当会ホームページやSNS等による情報を発信した。被災状況の共有や災害薬事コーディネーター育成についての検討を進めるべく、令和6年11月17日に、山形県、一般社団法人山形県薬剤師会と合同で災害合同研修会を実施した。災害時における当会の対応方法の整備については継続して協議している。

令和6年8月24日には、入職後3年以内の新入職員を対象とした山形県病院薬剤師会新人研修会を開催し、入職後早期からキャリアプランを考える機会を提供した。

山形県薬剤師会と共同主催している山形県薬学大会について、令和6年度は当会が幹事を担当し、令和6年10月20日に開催した。また、第4回目となる山形県病院薬剤師会学術大会を令和7年2月8日に開催した。

また令和6年度より、地域医療の連携推進や災害時対応、オーバードーズ対策等の諸課題を検討するため、山形県および山形県薬剤師会と定期的に意見交換する機会を設けた（令和6年4月26日、7月18日、10月17日、令和7年1月23日の4回開催）。オーバードーズに関する現状の共有を目的に、令和7年1月19日に令和6年度オーバードーズに関するシンポジウム「みんなでストップ!!オーバードーズ」を山形県及び山形県薬剤師会と合同で実施した。

喫緊の課題となっている病院薬剤師確保の問題について、厚生労働省の令和6年度薬剤師確保のための調査・検討事業に本県が採択された「病院薬剤師不足が深刻化している要支援医療機関への協力体制整備事業」について、当会が委託先となって事業を進めた。県とともに山形県病院薬剤師コントロールセンターを設置し、①薬剤師充足度に関する調査内容精査及び調査の実施、②優先的支援医療機関の選定基準の策定、③調査結果の評価・分析、優先的支援医療機関の選定、④要支援医療機関への支援体制スキームの構築、⑤医療機関のマッチング、⑥モデル派遣事業運用の効果検証と県内での運用拡大に向けた検討及び次年度以降への提案、を実施した。令和7年2月にモデル派遣を実施し、薬剤管理指導料算定開始をはじめとする、要支援医療機関での成果物を創出することができた。

また、特別委員会の活発な活動により、薬剤師確保にむけた中高生へのアプローチや若手薬剤師育成、DX推進についても大きく進展した一年であった。

▼会 員 数

正 会 員	370
特別会員	12
合 計	382

準 会 員	9
賛助会員	52

▼施設数および正会員数（ブロック別）

	庄内	村山	最上	山形	置賜	総数
施設数	11	12	4	17	13	57
会員合計	78名	42名	18名	176名	56名	370名

令和7年3月31日現在

▼総会・会議等

令和6年度

2024年04月21日(日) 令和6年度東北地区調整機構総会（第60回会議）

2024年05月08日(水) 第1回常務理事会

2024年06月01日(土) 第1回理事会

2024年06月01日(土) 令和6年度

一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会

2024年06月01日(土) 第2回理事会

2024年06月15日(土) (一社)日本病院薬剤師会第69回通常総会

2024年07月17日(水) 県薬剤師会・県病院薬剤師会合同役員懇談会

2024年08月01日(木) 第3回理事会

2024年08月25日(日) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会

2024年09月04日(水) 第1回災害時の対応に関する検討会

2024年10月19日(土) (一社)日本病院薬剤師会地方連絡協議会

2024年10月20日(日) 第70回山形県薬学大会

2024年10月21日(月) 第2回常務理事会

2024年10月21日(月) 第2回災害時の対応に関する検討会

2024年10月28日(月) 第4回理事会

2024年11月21日(木) 県薬剤師会・県病院薬剤師会合同役員懇談会

2025年02月08日(土) 第4回山形県病院薬剤師会学術大会

2025年02月22日(土) (一社)日本病院薬剤師会第70回臨時総会

▼研修会 令和6年度研修会開催一覧（主催・共催・協賛・後援）

- 2024/06/02(日) 日本TDM学会第73回セミナー
- 2024/07/19(金) 第23回山形COPD研究会
- 2024/07/21(日) 2024年度第一回山形県がん化学療法セミナー
- 2024/07/27(土) 令和6年度山形県病院薬剤師会第1回周産期薬物療法研修会
- 2024/08/02(金) 第14回庄内薬剤師糖尿病Web講演会
- 2024/08/24(土) 令和6年度一般社団法人山形県病院薬剤師会新人研修会
- 2024/08/31(土) 令和6年度第1回山形県病院薬剤師会感染対策講習会
- 2024/09/01(日) 第6回山形糖尿病スキルアップセミナー
- 2024/10/02(水) Innovative Pharmacist Seminar in Yamagata 2024
- 2024/10/12(土) 2024年度第2回山形県がん化学療法セミナー
- 2024/10/19(土) 第3回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー
- 2024/10/20(日) 第70回山形県薬学大会
- 2024/10/25(金) 令和6年度第2回山形県病院薬剤師会 感染対策講習会
- 2024/10/26(土) 2024年度第3回山形県がん化学療法セミナー
- 2024/10/28(月) 薬剤師のための地域医療連携研修会
- 2024/11/17(日) 令和6年度薬剤師のための災害対策合同研修会
- 2024/11/22(金) 明日の化学療法を考える会
- 2024/12/19(木) 令和6年度山形県糖尿病療養指導・薬学Web研修会
- 2024/12/20(金) 山形県病院薬剤師会 山形腎Web学術講演会
- 2024/12/22(日) 2024年度第4回山形県がん化学療法セミナー
- 2025/01/19(日) 令和6年度オーバードーズに関するシンポジウム
- 2025/01/28(火) 3rd DX Challenge Seminar in YAMAGATA
- 2025/02/01(土) 2024年度 第5回山形県がん化学療法セミナー
- 2025/02/07(金) 令和6年度 山形県病院薬剤師会 医療安全推進講習会
- 2025/02/08(土) 第4回山形県病院薬剤師会学術大会
- 2025/02/20(木) 令和6年度山形県病院薬剤師会腎セミナー
- 2025/03/01(土) 令和6年度山形県病院薬剤師会第2回周産期薬物療法研修会
- 2025/03/10(月) 第4回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー
- 2025/03/22(土) 第10回やまがた医療連携吸入指導勉強会
- 2025/03/29(土) 山形県病院薬剤師会庄内エリア研修会

計30回

▼委員会活動報告

委員会名	広報委員会
委員 ◎：委員長	◎板垣 有紀、佐藤ゆかり、佐藤 一真、佐藤 拓也、川井 美紀、有川 真理
R 6年度 活動報告	<p>【委員会開催】 <ZOOMによるオンライン開催> ・2024年度第1回広報委員会 2024年7月31日(水) ・2024年度第2回広報委員会 2025年3月19日(水)</p> <p>【機関紙発刊】 ・県病薬やまがた広報誌 No.35 2024の発刊 施設紹介が前号までで一巡したため、今号は、新築移転病院（県立新庄病院・米沢市立病院・三友堂病院）の紹介を行った。</p>
R 7年度 にむけて	<p>【機関紙発刊】 ・県病薬やまがた広報誌 No.36 2025の発刊 当会（委員会の取り組み等含む）の活動について、多数掲載していく</p> <p>【活動・情報発信】 ・県病薬のSNSのアカウントにて、会の活動や情報をタイムリーに発信し、魅力ある山形県病薬をアピールする。</p>

委員会名	学術委員会
委員 ◎：委員長	◎小倉 次郎、菅原 拓也、石川 大介、海藤真理子、小島 俊彦、今田 良樹、田中 大輔、中村 新、服部 豊、樋口 安耶
R 6年度 活動報告	<p>●委員会開催 1. 令和6年8月15日(木) 19:00-20:00 @ZOOM会議 2. 令和7年1月16日(木) 19:00-20:00 @ZOOM会議 3. 令和7年2月8日(土) 10:40-11:10 @山形テルサ 4. 令和7年3月27日(木) @メール会議</p> <p>●学術委員会ポータルサイトの運営 継続して臨床研究に関する支援等を行っている。</p> <p>●第4回 山形県病院薬剤師会学術大会 日時：令和7年2月8日(土) 13:00～16:00 会場：ZOOM配信【配信会場：山形テルサ】 学術発表：9演題 優秀発表賞： 『転院時の薬剤情報の共有—未来志向の取り組み—』 佐藤 智也 先生（山形済生病院 薬剤部）</p> <p>●R 6年 山形県病院薬剤師会 優秀論文賞 最優秀論文賞： 『院外処方せんにおける疑義照会簡素化プロトコルの評価と課題』 岡田 美桜 先生（山形市立病院済生館 薬局） 優秀論文賞（次点） 『散薬調剤ロボット導入による業務効率化の検討』 田中 沙織 先生（山形市立病院済生館 薬局）</p> <p>●山形県病院薬剤師会学術委員会の活動紹介 第34回日本医療薬学会年会 in 千葉 令和6年11月4日(月) 『山形県病院薬剤師会学術委員会における臨床研究支援の取り組み』 小倉 次郎（山形大学医学部附属病院 薬剤部）</p>

R 6年度 活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ●県内学会の開催支援 第70回山形県薬学大会（山形県薬剤師会との共催） 令和6年10月20日（日） ●山形県学術業績調査 <ul style="list-style-type: none"> ①R 1～R 5年までの県内施設の学術業績調査を行った （令和6年10月24日公開） ②R 6年の学術業績調査を実施中
R 7年度 にむけて	<ul style="list-style-type: none"> ●学術委員会ポータルサイトの運営：通年 ●学術委員会の紹介活動：通年 ●県病薬委員会・専門部会との連携：通年（R 7年度より新規で開始） ●病院薬剤師研究推進セミナー in 山形：7月ごろ ●第71回山形県薬学大会（山形県薬剤師会と共催）：9月ごろ ●第5回山形県病院薬剤師会学術大会：1月ごろ ●R 7年山形県病院薬剤師会 優秀論文賞：1月ごろ ●R 7年学会発表・論文発表実績調査：1月ごろ

委員会名	災害対策委員会
委員 ◎：委員長	◎大熊 良和、吉田 崇志、今橋 良太、佐藤 拓也、佐藤 遼、小竹 美穂、 小島 俊彦、石山 靖憲、齋藤 順、渡邊 茂

R 6年度 活動報告	<p>①令和6年7月25日からの大雨に係る被害についての情報収集と報告 活動内容としてはEMIS（広域災害救急医療情報システム）の確認や山形県災害対策本部との情報共有など。その他、LINE WORKSにて会員から報告された内容を取りまとめ、山形県の病院薬剤部門の被害状況を日病薬へ報告した。</p> <p>②災害時の病院薬剤部門被害状況集約方法の検討 上記大雨災害での活動から、多くの課題が抽出された。まずは、最も大きな課題であった情報集約の目的、指揮命令系統、情報収集の方法について対応策を検討した。素案については委員会でもまとめており、常務理事会、事務局へ提出済み。理事会、総会で承認後に公開する。</p> <p>③「令和6年度薬剤師のための災害対策合同研修会」の開催 日時：令和6年11月17日 場所：ハイブリッド開催 山形大学医学部 第5講義室 および WEB配信 【講演】 1.「オンライン資格確認等システムのアクティブ化を利用した災害時の患者情報収集と活用」 一般社団法人山形県薬剤師会 会長 岡崎千賀子 先生 2.「7月25日豪雨による浸水被災後の薬局機能再建と避難所支援活動」 一般社団法人山形県薬剤師会 常務理事 星 利佳 先生 3.「能登半島地震における市立輪島病院への派遣：日病薬災害登録派遣薬剤師の活動と課題」 日本海総合病院 薬剤専門員 小竹 美穂 先生 【特別講演】座長 米沢市立病院 薬剤部長 渡邊 茂 先生 「都道府県における災害時の体制整備に係る薬剤師の位置付け」 山形県立こども医療療育センター シニア専門員 萬年 琢也 先生 参加者：187名（現地34名+オンライン153名）</p>
R 7年度 にむけて	<ul style="list-style-type: none"> ・情報集約ツール（被害状況報告フォーム）の運用方法の確立と訓練開催 ・山形県病院薬剤師会災害対策マニュアル作成の検討を行う ・山形県災害対策研修会を開催する ・PhDLS（災害薬事研修会）への参加促進と山形県開催の検討を行う ・山形県や山形県薬剤師会と連携し、災害薬事コーディネーターを育成する

委員会名	医療安全推進委員会
委員 ◎：委員長	◎倉本美紀子、足達 昌博、石川 千尋、植松 聡志、小林 武志、半田 貢康
R 6年度 活動報告	<p>2024年8月16日(金) ZOOMにて今年度の活動について検討 今年度も従来通り、研修会をWeb形式で実施することが決定されました。 研修会のテーマは「デジタル化によるタスクシフトと医療安全」とし、内容をこのテーマに沿ったものとししました。</p> <p>2025年2月7日(金) Web研修会開催 司会 医療法人篠田好生会 天童温泉篠田病院 半田 貢康 先生 座長 置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院薬剤部 薬局長 倉本美紀子</p> <p>演題Ⅰ 「調剤支援・進捗システム導入による変化」 置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院 薬剤部 松村 聡大 先生</p> <p>演題Ⅱ 「当院の医療安全文化醸成へ向けて」 公立学校共済組合 東北中央病院 薬剤部 小林 武志 先生</p> <p>演題Ⅲ 「当院における調剤に関わるシステムの再構築」 社会医療法人 みゆき会病院 薬剤科長 丘 龍祥 先生</p> <p>上記の内容で開催いたしました。視聴人数も予想を超え順調に進んでおりましたが、終了15分前に突然Zoom接続が切れてしまい、ご視聴いただいていた皆様、発表された先生には大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。</p>
R 7年度 にむけて	<p>医療安全に対する関心が薄いと感じられますが、医療安全は重要で不可欠な要素です。これを受けて、より多くの方々が興味を持てるような研修会を提供したいと考えています。また、病院の規模や予算に応じて、参加者に寄り添った内容で医療安全研修を実施したいと考えています。さらに、機器のトラブルが発生しないよう、慎重に再検討したいと思います。</p>

委員会名	薬剤師業務委員会
委員 ◎：委員長	◎大川 賢明、水口 真知、宮崎 衛江、佐藤 貴大、大類あかね
R 6年度 活動報告	<p>薬剤師業務委員会におきましての活動は研修会なども含め、特記する活動はありませんでした。</p>
R 7年度 にむけて	<p>本委員会は、薬剤師の偏在や規模による業務負担の差異などによって生じる種々の問題の追求も一つの目的としてきましたが、そのための最大の懸案としている人員の確保が中小病院においてはますます厳しい状況となっていると言わざるを得ません。</p> <p>兼務をしています東北中小病院連携委員会療養部門では、年に3回ほどWeb Meetingを開催して情報の交換をしておりますが、対策を講じる手段として度々話題となる医療DXも、いかに活用すべきか等が話題には挙がるものの実現に向けるのに立ちはだかる要因は周知の通りコストの問題でありました。実際のところ、行政からの助成や機器導入加算等がなければ小規模病院や民間の中小病院での導入は困難であるという意見もありました。タスクシフトもなかなか進展していかない中、そのような状況下で当県において派遣業務がスタートしたということは画期的であり、今後も拡大することが望まれると感じます。</p> <p>同様の環境で日夜奮闘している中小病院の薬剤師において、少しでも改善の糸口を見つけようと東北ブロックの委員会では意見を共有できる環境を構築しています。今後もアンケート調査などに際しては是非とも御協力していただきますことをお願いします。</p>

委員会名	薬学教育委員会
委員 ◎：委員長	◎市川 勇貴、阿部 一弥、押切佳代子、高橋 信明、菅原 拓也、小竹 美穂
R 6年度 活動報告	<p>【委員会】 令和6年11月18日 令和6年度第一回委員会開催 (報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度実務実習マッチングについての報告 ・各施設での実務実習の現状を報告 ・令和6年度WS委員会・タスク合同会議出席について ・第81回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの参加 <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年年度実施分実務実習に関するアンケートの集計結果公表方法について ・研修会、シンポジウムの開催について ・次期委員改選について <p>【アンケートの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地区調整機構 病院実務実習小委員会からのアンケート依頼への回答 ・東北地区調整機構 実務実習受け入れに関する受け入れ施設数及び学生数調査への回答 <p>【実務実習マッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度実務実習受け入れ施設アンケートの実施（継続中） <p>【東北地区調整機構第一回病院実務実習小委員会の参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年1月18日 ZOOMにて上記会議に参加（市川）
R 7年度 にむけて	<p>【委員会の開催】 年間複数回の委員会を実施し、各施設における実務実習の現状や問題点を検討</p> <p>【指導薬剤師の育成】 令和7年9月14、15日に山形県で開催される認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの参加協力</p> <p>【研修会の開催】 各施設の現状や問題点を話し合う研修会の開催</p>

委員会名	生涯研修委員会
委員 ◎：委員長	◎國井 健、板垣 有紀、高橋 和枝、須藤 将裕、黒田 晋平、竹屋 里恵
R 6年度 活動報告	<p>昨年度から山形県病院薬剤師会として新たに生涯研修委員会が発足し、「日病薬の生涯研修制度」や「日病薬病院薬学認定薬剤師の資格取得」等の啓蒙を目的とした『新人研修会』を行っている。</p> <p>今年度は第2回目の新人研修会を、昨年終了後アンケート結果を参考にして「病院薬剤師の生涯研修について」、「専門・認定薬剤師について」の2部構成で開催した。その終了後アンケートの結果は「必要なもの」、「他職種から信頼される」等の意見があり、概ね好評だった。</p> <p>県病薬の新人薬剤師全21名中19名の参加であったが、この高い参加率から見ても新人薬剤師にとっては、興味深い貴重な研修会が企画出来ているのだろうと思う。</p> <p>また新人薬剤師にとっては他施設の同期薬剤師と横の繋がりを深めて貰うために、昨年に引き続き情報交換会も企画した。情報交換会は新人・講師陣合わせて27名が参加し、大変な盛り上がりを見せて終了できた。</p> <p>その他、昨年度行った『新人研修会』において開催前と開催後にアンケートを取り、その研修会前後での意識の違いについて、今年7月に熊本で行われた「医療薬学フォーラム2024」に生涯研修委員会メンバー3名で参加しポスター発表を行ってきた。全国の薬剤師の頑張りを実感すると共に、熊本での食事・観光も大いに満喫してきた。</p>
R 7年度 にむけて	今まで同様、新人薬剤師にとって貴重な研修会（「日病薬の生涯研修制度」、「日病薬病院薬学認定薬剤師の資格取得」等を中心とした内容）を企画していく予定。

委員会名	地域医療連携委員会
委員 ◎：委員長	◎赤尾 眞、齋藤 正子、海和 颯、齋藤 順、大川 賢明、星 利佳
R 6年度 活動報告	<p>令和6年度は地域医療連携優良事例集の作成と地域医療連携についての研修会を企画、山形県薬剤師会と連携に関する協議会を必要時開催するとして3つの活動方針にて活動した。</p> <p>Web会議を2024年7月4日に持ち、それ以外はLINEワークス委員会グループにて検討を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域医療連携優良事例集の作成についてはLINEワークス委員会グループにて相談しながら案を作成予定であったが、検討は進まず作成に至らなかった。 研修会については2つ研修会を企画した。 <ul style="list-style-type: none"> ①2024年10月28日(月) 薬剤師のための地域医療連携研修会（新庄地区） <ul style="list-style-type: none"> 基調講演（座長：星利佳 有限会社メディカほし薬局代表取締役社長） 『最上地区における地域医療連携～がん・緩和領域を中心に～』 小林 由佳 先生（山形県立新庄病院 薬剤部） 特別講演（座長：赤尾眞 米沢市立病院 薬剤部） 『在宅緩和ケアにおける連携の在り方』 笠原 庸子 先生（医療法人秋本クリニック 地域連携室 室長） <p>開催趣旨：病院から在宅へ退院するときに、病棟薬剤師はどのような準備や連携が必要なのか、院内他職種含め地域の他職種やかかりつけ保険薬局とどのような連携が求められるのかを保険薬局と共に学べるように企画した。</p> <p>ハイブリット開催、参加者：現地24名、Web54名</p>

	<p>②2024年12月山形腎Web学術講演会（米沢地区） 特別講演（座長：赤尾 眞 先生 米沢市立病院 薬剤部） 腎機能を考慮した医薬品適正使用－外来における薬局薬剤師の関与を交えて－ 演者：近藤 悠希 先生 熊本大学大学院 生命科学研究部 臨床薬理学分野 准教授</p> <p>開催趣旨：腎機能の評価について考え方を病院薬剤師、薬局薬剤師の立場からどのように考え、処方介入を行うのかをその手法を学び、かかりつけ保険薬局と病院薬剤師でどのような連携が求められるのかを病院薬剤師、保険薬局と共に学べるように企画した。</p> <p>ハイブリット開催、参加者：現地20名、Web54名</p> <p>3. 山形県薬剤師会との連携協議については2024年1月27日に県薬・県病薬にて会を持ち、その後は実務者レベルにて問題があれば共有して解決案を検討する方針となっていたが、特に今年度は両者とも問題提案はなく、連携協議会は行われなかった。</p>
R7年度にむけて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携についての優良事例集は日病薬などでも作成されており、山形県の地域性なども考慮して必要があれば作成も検討していく。 ・研修会については病院薬剤師、薬局薬剤師が共に連携について学べるような研修会を企画していきたい。 ・山形県薬剤師会との連携協議会については、病院薬剤師の立場から積極的に地域医療連携のために企画を提案していきたい。

委員会名	中小病院・療養病床・診療所委員会
委員 ◎：委員長	◎相馬 直記、鈴木 純一、田中 久美、高橋 尚史、横澤 大輔

R6年度活動報告	<p>2024年 「病院薬剤部門の現状調査」について 療養型病院では回答率が低い傾向にあり、原因として人員不足による負担があげられていたため、総務課などと協力して回答してもらうよう情報提供</p> <p>6/12-17 令和6年度東北病薬 中小病院等連携委員会調査（医療DXに関するアンケート）の依頼に対し協力していただいた</p> <p>11/15 日本病院薬剤師会中小病院薬剤師実践セミナーの案内</p> <p>2025年 3/6 置賜地区中心に回復期病院の活動事例を紹介したセミナー開催 Pharmacy Skill Up Seminar（三友堂病院の取り組み紹介）</p>
R7年度にむけて	<p>以下の案件について引き続き検討していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日病薬関係を中心に中小病院に関する情報共有 ・「病院薬剤部門の現状調査」の回答率アップのための支援 ・委員施設の人員確保状況および対策について ・東北ブロック学術大会シンポジウムへの参加 ・東北病薬中小病院等連携委員会調査への協力 ・中小病院向けのオンライン研修会などを企画

委員会名	認定・専門部会（がん領域）
委員 ◎：委員長	◎延川 正雄、金子 基子、茂木 佳子、五十嵐康郎、小林 由佳、西村 雅次、 小野 裕紀、齋藤 智美、貴田 清孝、安部 一弥

R6年度 活動報告	<p>1. がん領域部門委員会の開催について</p> <p>第1回委員会</p> <p>① 日 時：令和5年7月11日(火) 18時00分～19時00分</p> <p>② 開催場所：web会議</p> <p>③ 出席者：松田副会長、委員8名（2名欠席）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度活動報告（山形県がん化学療法セミナー5回分） ・令和7年度活動計画について協議 ・委員の交代と継続について協議 ・症例検討会のテーマについて協議 <p>2. 令和6年度山形県がん化学療法セミナーの開催実績について</p> <p>① 第1回 支持療法（小野薬品工業）</p> <p>担 当：山形済生病院、山形市立病院済生館</p> <p>開 催：2024年7月21日(日) 14：00～16：00</p> <p>参加者：50名</p> <p>【特別講演①】</p> <p>「がん悪液質とアナモレリン～早期中止の回避へ向けて」</p> <p>名城大学薬学部 病態解析学Ⅱ教授 築山 郁人 先生</p> <p>【特別講演②】</p> <p>「がん患者の治療の質を高める食欲と栄養の話」</p> <p>藤田医科大学総合消化器外科学 臨床教授 松岡 宏 先生</p> <p>② 第2回 前立腺がん（アステラス製薬）</p> <p>担 当：山形大学医学部附属病院</p> <p>開 催：2024年10月12日(土) 13：00～15：00</p> <p>参加者：22名</p> <p>【特別講演①】</p> <p>「前立腺がん患者における薬学的介入」</p> <p>秋田大学医学部附属病院 薬剤部主任 藤田 一馬 先生</p> <p>【特別講演②】</p> <p>「前立腺癌の1次治療について」</p> <p>山形大学医学部腎泌尿器科外科学講座 助教 成澤 貴史 先生</p> <p>③ 第3回 胆道がん（アストラゼネカ）</p> <p>※講師の都合で8月→10月開催へ</p> <p>担 当：鶴岡市立荘内病院、日本海総合病院</p> <p>開 催：2024年10月26日(土) 14：00～16：00</p> <p>参加者：28名</p> <p>【セッション1】</p> <p>「胆道がんの内視鏡検査と治療」</p> <p>山形大学医学部内科学第二講座 講師 松田 暁子 先生</p> <p>「胆道がんの外科治療」</p> <p>日本海総合病院 外科部長 中西 渉 先生</p> <p>【セッション2】</p> <p>「胆道がんの薬物療法」</p> <p>山形大学医学部臨床腫瘍学講座 講師 福井 忠久 先生</p> <p>④ 第4回 症例検討会（グループディスカッション）</p> <p>担 当：県立中央病院、県立新庄病院</p> <p>当日協力：活動メンバー</p> <p>開 催：2024年12月22日(日) 13：00～16：00</p> <p>参加人数：13名</p> <p>テ ー マ：「免疫チェックポイント阻害薬の免疫有害事象（ir-AE）マネジメント」</p>
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R 6年度 活動報告	<p>⑤ 第5回 乳癌（第一三共） 担当：公立置賜総合病院、米沢市立病院 開催：2025年2月1日(土) 15:00～17:00 参加人数：38名 【一般講演】 「乳腺外科から始めた薬剤師外来の現状」 日本海総合病院 薬剤部 阿部美佐緒 先生 「三友堂病院と連携しているエンハーツILDマニュアル運用事例」 米沢市立病院 薬剤部 主任 貴田 清孝 先生 【特別講演】 「最新の乳癌薬物療法について」 北村山公立病院 乳腺外科診療部長 鈴木 真彦 先生</p>
R 7年度 にむけて	<p>令和7年度事業計画について：山形県がん化学療法セミナーを5回開催する。このうち第4回目に都道府県がん診療連携拠点病院としての研修会と共催で症例検討会を計画する。</p>

委員会名	認定・専門部会（緩和領域）
委員 ◎：委員長	◎小林 由佳、阿部美佐緒、志田 敏宏、鈴木 麻友、寺崎 敦子、中村 新

R 6年度 活動報告	<ol style="list-style-type: none"> 生涯研修委員会の新人研修会における「各専門・認定薬剤師制度について」の講義への協力 地域医療連携委員会企画の「薬剤師のための地域医療研修会」において緩和領域を含めた地域医療連携についての講義への協力 日本緩和医療薬学会認定講習単位の申請 がん領域部門のがん化学療法セミナー 5回中、緩和領域の内容を含む2回 地域医療連携委員会の薬剤師のための地域医療研修会 1回 令和6年度は緩和薬物療法に関する研修会の開催及び参加者アンケートを年2回予定していたが、WEB研修会を開催するためのデバイスの確保や打ち合わせ・準備時間の確保が困難で行えなかった。準備の負担軽減のためメーカーへ共催について打診を行ったが、協力いただけるメーカーを見つけることができなかった。
R 7年度 にむけて	<p>第8次山形県保健医療計画において、地域における医療連携体制の「がん医療の充実」として、緩和薬物療法認定薬剤師を配置している拠点・指定病院の割合の目標値が2026年で6/7病院、2029年に7/7病院とされている。一方で2022年の時点では5/7病院だったものの2025年現在では4/7病院となっており、2026年で6/7病院は達成不可能な状況となっている。また、認定取得者の年齢層が高く、若手～中堅の緩和薬物療法認定薬剤師の育成は喫緊の課題である。</p> <p>本年4月に日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師の申請資格が大幅に見直されたのを機に変更点を周知するとともに、がん拠点・指定病院等で緩和薬物療法認定薬剤師の認定取得を目指す薬剤師を把握し、認定取得に向けての必要なサポートを行うことで本県の緩和薬物療法認定薬剤師の育成に努める取り組みを優先して行う。</p> <p>長期的視点で、在宅緩和ケア普及・啓発に向けた連携促進のための研修会等の企画・開催や地域住民への緩和ケアの普及啓発に関する講演会の企画・開催、緩和薬物療法を目指しており、段階的に検討を進めていく。</p>

委員会名	認定・専門部会 (感染制御領域)
委員 ◎：委員長	◎石山 晶子、五十嵐 徹、相馬 直記、関口 徳志、大熊 良和
R 6 年度 活動報告	<p>【開催講習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 第1回山形県病院薬剤師会 感染対策講習会 日 時：2024年8月31日(土)15：00～16：40 場 所：集合研修（山形テルサ研修室A）+オンライン研修 参加人数：薬剤師 41名 講演Ⅰ『抗菌薬のいろは～βラクタム系～』 山形市立病院済生館 薬局 関口 徳志 先生 講演Ⅱ『薬剤師に伝えたい！ 子どものミカタ（診方・味方）』 兵庫県立こども病院 感染対策部長、小児救命救急センター次長、感染症内科部長 一般社団法人こどものみかた副代表理事 笠井 正志 先生 ・令和6年度 第2回山形県病院薬剤師会 感染対策講習会 日 時：2024年10月25日(金)18：30～20：30 場 所：集合研修（山形テルサ研修室A）+オンライン研修 参加人数：薬剤師 37名 講演Ⅰ『薬剤耐性菌感染症の治療戦略』 山形県立中央病院 感染症内科・感染対策部 部長 阿部 修一 先生 Q&Aセッション 症例提供：日本海総合病院 薬剤部 五十嵐 徹 先生 講演Ⅱ『COVID-19の最新知見』 学校法人聖マリアンナ医科大学 感染症学講座 主任教授 國島 広之 先生 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度山形県病院薬剤師会新人研修会にて『専門・認定制度について（感染制御領域）』を発表 講師：石山 晶子
R 7 年度 にむけて	J-SIPHEを使用し、県内医療機関の抗菌薬使用状況を比較検討できる体制の構築を目指す。症例検討などスモールグループディスカッションを含めた講習会を年2回を目安に開催する。上記に合わせて適宜部会を開催予定。

委員会名	認定・専門部会 (精神科領域)
委員 ◎：委員長	◎小林 聖子、小柳 康弘、提箸 尚貴、佐藤 幸、永井 瑛恵、本柳 達也

R 6 年度 活動報告	<p>【委員会開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回（現地）2024年10月19日16：00～16：50（出席：委員6名） ◆第2回（web）2025年4月14日18：30～19：10（出席予定者：委員6名、伊藤副会長） 会員向けの研修会の企画検討、共同研究の進捗状況の確認を行った。 <p>【研修会開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第3回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー（県病薬主催） <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2024年10月19日14：00～15：30 ・場所：山形さくら町病院 生活機能訓練室（現地のみ） ・シンポジウム テーマ：精神疾患患者を支える薬剤師の取り組み <ol style="list-style-type: none"> ①『総合病院における精神科関連業務 一例として』 山形県立こころの医療センター薬剤科 佐藤 幸 先生 ②『大学病院における精神科関連業務 病棟業務とリエゾンチーム』 山形大学医学部附属病院薬剤部 提箸 尚貴 先生 ③『精神疾患を併せ持つ患者への在宅服薬管理支援』 萬屋薬局七日町支店 志田 伸子 先生 ④『精神科デイケアでの活動』 若宮病院薬剤科 小柳 康弘 先生 ・参加者13名 ◆第4回やまがた精神科薬物療法STEP UPセミナー（県病薬共催） <ul style="list-style-type: none"> ・共催：株式会社ツムラ ・日時：2025年3月10日18：30～20：00 ・オンライン方式 ・プログラム <ol style="list-style-type: none"> ①一般講演 「病院で働く心理職の実際～若宮病院での業務、実践の関りから～」 演者：若宮病院 検査科 大島 希 先生 ②特別講演 「認知症B P S Dの精神神経症状や高齢者の不眠に有用な漢方薬」 演者：箕面神経サナトリウム 田上 真次 先生 ・視聴者40名 <p>【研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆多施設共同研究『睡眠薬服用患者における睡眠の満足度と睡眠衛生に関する認知度の無記名アンケート調査』を2024年7～9月に実施した。結果は解析中である。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆令和6年度山形県病院薬剤師会新人研修会（山形、2024年8月）で講演を行った。 『専門・認定制度について』 講師：小林 聖子 ◆第34回医療薬学会（千葉、2024年11月）で共同研究に関する活動報告を行った。 『山形県病薬学術委員会のサポートを受けた臨床研究活動』 演者：小林 聖子
R 7 年度 にむけて	<p>【研修会の企画】</p> <p>年2回を目安とした会員向けの研修会の企画を行う。</p> <p>【研究・発表】</p> <p>共同研究のデータをまとめて、学会発表や論文投稿を行う。</p> <p>【患者家族会などの講師】</p> <p>講師派遣の依頼があれば行いたいと考えている。</p>

委員会名	認定・専門部会 (周産期領域)
委員 ◎：委員長	◎遠藤 清香、植村奈緒瑠、小幡 瞳、唐沢 美砂、百瀬 里穂、山口亜耶子
R 6 年度 活動報告	<p>前年度までの委員会目標を引継ぎつつ、以下の目標を設定し、その達成に向けて活動した。 「周産期領域も薬といえば薬剤師～より患者に身近な存在に～」</p> <p>【委員会開催】 ・以下の日程で委員会を開催した。 第1回：2024年10月17日16：00～17：00 第1回：2025年2月4日16：00～17：00</p> <p>【研修会開催】 ・以下の研修会を開催した。県内外より1回目約40名、2回目約50名の参加があった。 令和6年度 山形県病院薬剤師会 第1回周産期薬物療法研修会 開催日：2024年7月27日14：00～16：10</p> <p>【特別講演1】 「妊娠前・妊娠中・授乳期の女性を支えるために～薬剤師の皆様へのお願い～」 演者：藤嶋 明子 先生 (秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系産婦人科学講座 助教)</p> <p>【特別講演2】 「周産期における薬物療法について」 演者：堤 誠司 先生 (山形県立中央病院 総合周産期母子医療センター長(兼)周産期母子部長(兼)MFICU室長)</p> <p>令和6年度 山形県病院薬剤師会 第2回周産期薬物療法研修会 開催日：2025年3月1日13：00～15：10</p> <p>【特別講演1】 「妊娠糖尿病」 演者：間中 英夫 先生 (山形県医師会会長 山形済生病院TQMセンター長)</p> <p>【特別講演2】 「不妊治療における薬物療法について」 演者：中村 文洋 先生 (山形大学医学部附属病院産婦人科)</p> <p>次年度の研修会開催計画を以下の通り策定した。 第1回：高血圧／喘息 第2回：新生児／甲状腺 第3回：精神疾患／カウンセリング (前年度に予定していた「妊婦・授乳婦専門薬剤師の役割」も早い時期に研修会のテーマとする。)</p> <p>【学会発表】 ・以下の通り、学会にてポスター発表を行った。 百瀬里穂、植村奈緒瑠、遠藤清香、小幡瞳、唐沢美砂、武田桐佳、東海林千裕、畠山瑞季、畠山史朗、志田敏宏：妊婦・授乳婦の服薬に関連した医薬品情報提供およびカウンセリングにおける病院薬剤師の関与状況の調査、第13回東北ブロック学術大会、八戸：2024年5月</p> <p>【広報・啓発活動】 ・以下の研修会で講演し、周産期薬物療法の啓発を行った。 遠藤 清香：専門・認定制度について、令和6年度山形県病院薬剤師会新人研修会、山形：2024年8月</p> <p>【その他】 ・令和6年度に山形県で新たに2名の薬剤師が妊婦授乳婦薬物療法認定薬剤師を取得した。 (うち1名は周産期部門委員の植村 奈緒瑠先生 (鶴岡市立荘内病院))</p>

R7年度 にむけて	<p>活動目標：今年度同様に「周産期領域も薬といえば薬剤師～より患者に身近な存在に～」を目標として掲げ、達成に向けて活動を行う。</p> <p>研修：上記研修会開催計画に基づいて開催を行う。</p> <p>広報・啓発：県病薬やまがた広報誌へ部門より投稿を行う。内容は委員の施設における活動報告や、山形県内の周産期薬物療法に関する情報提供の現状についての報告を検討している。</p> <p>その他：妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の認定取得希望者へのサポートプログラムを開始する。会員から部門への連絡やアクセスを向上させるために、ホームページやLINE worksの整備を行う。</p>
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

委員会名	認定・専門部会 (糖尿病関連領域)
委員 ◎：委員長	◎鎌田 敬志、青木 梢太、菅原しおり、佐東 未咲、小関 環、八楯 雅紹

R6年度 活動報告	<p>今年度の事業報告</p> <p>1) 会議 令和6年8月5日 16時 第1回県病薬糖尿病関連領域部門委員会 令和7年3月11日 17時 第2回県病薬糖尿病関連領域部門委員会</p> <p>2) 研修会等 糖尿病：・山形県糖尿病療養指導・薬学Web研修会支援 (R6.12.19) ・第14回庄内薬剤師糖尿病Web研修会支援 (R6.8.2) 腎臓病：・山形県病院薬剤師会 腎セミナー～透析医療の扉を開こう～ (R7.2.20)</p>
R7年度 にむけて	<p>1) 来年度の体制 県病薬総会後の部門会議実施(案) 年2回以上 糖尿病関連領域専門部内規見直し 研修会計画 ・糖尿病1企画以上 ・腎臓病1企画以上 ・山形県内の糖尿病ならびに腎臓病に関わる関連研修会の支援 ・他の専門部会と連携</p>

委員会名	U40特別委員会
委員 ◎：委員長	◎中村雄太郎、稲毛あずさ、青木 俊人、菅原しおり、荒井 潤
R 6年度 活動報告	<p>U40特別委員会 第9回会議 令和6年4月17日 U40特別委員会 第10回会議 令和6年6月27日 U40特別委員会 第11回会議 令和6年7月17日 U40特別委員会 第12回会議 令和6年10月29日</p> <p>『若手薬剤師育成に関する意見交換会』 令和7年3月18日 参加者：U40特別委員会 委員3名 福島県病院薬剤師会 木本 真司 先生 福島県病院薬剤師会 鈴木 涼子 先生</p>
R 7年度 にむけて	<p>2年間の任期を通し、研修会を1回、福島県病院薬剤師会の若手育成担当者との意見交換会を1回開催することが出来た。しかしながら、任期開始当初の目標として複数回の研修会開催を考えていたため、想定を下回る実績となってしまった。また、研修会の参加人数は10名と程度となったため、こちらも想定を下回る結果となった。これらの実績から、県病薬全体の若手薬剤師に対する影響力は大きくなかったという点が反省点として考えられる。一方で、U40特別委員会の委員会開催回数は比較的多く行ったことで、委員同士の意見交換は活発に行うことが出来、委員会メンバーの成長につながったと考えられる。また、各委員からは、2年間の感想として「研修会企画の大変さを知ることが出来た」「人を動かすことの困難さを知ることが出来た」「他施設の薬剤師との意見交換が良い経験になった」など委員会活動を通じた新たな経験に対するポジティブな意見が多く挙げられた。</p> <p>U40特別委員会の強みとしては、自分たちが求められていることを考え、実際の行動に起こしていくことで周囲や自分たちを活性化していけることがあると思われる。何を行っていくのか決まっていないため自分たちで決めていくことが特徴である一方で、各施設において薬剤師が不足している現状では、委員会活動に十分な時間を割くことが出来ずに活動内容決定まで時間を要することが弱点である。次年度以降もU40特別委員会が継続していく場合、病院薬剤師会からU40特別委員会へ大まかな活動目標を与え、委員会メンバーは目標達成のための手段について検討していく形式をとっていく方が、より明確な実績が期待できると思われる。</p>

委員会名	病院薬剤師確保特別委員会
委員 ◎：委員長	◎羽太 光範、國井 健、鎌田 敬志、延川 正雄、赤尾 眞
R 6 年度 活動報告	<p>『山形県病院勤務薬剤師オンライン就職説明会』の開催 日 程：2024年4月23日(火)～25日(木) 時 間：18：30～20：00 参加施設：14施設 参加人数：3日間で約10名</p> <p>第1回病院薬剤師確保特別委員会開催（2024/5/31） 第2回病院薬剤師確保特別委員会開催（2024/7/2）</p> <p>令和6年度 厚生労働省委託事業「病院薬剤師不足が深刻化している要支援医療機関への協力体制整備事業」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の委員として参画し中心的な役割を担った <p>【当該事業の概要】 本事業では、山形県と一般社団法人山形県病院薬剤師会が「山形県病院薬剤師コントロールセンター」を設置し、県内の病院薬剤師の充足度を調査した。 その結果、地域医療を支えるために支援が必要な医療機関を特定した。 2025年2月の短期派遣（1ヵ月）を試行し、その後、派遣終了後に関係者が集まり評価を実施。山形県では薬剤師不足が深刻で、派遣できる施設も限られていることから、薬剤業務向上加算を前提としない新たな派遣スキームを検討した。</p> <p>その他 特別戦略アドバイザーの佐藤博明氏の助言をもらいながら、実施できそうな取り組みは積極的に進めていった。 →中学校や高校の表敬訪問等を非公式な自主的活動として一部展開した</p>
R 7 年度 にむけて	

委員会名	DX推進特別委員会
委員 ◎：委員長	◎羽太 光範、鏡 優貴、貴田 清孝、後藤 純一、草島 宏平、平 浩幸
R 6 年度 活動報告	<p>第1回DX推進特別委員会開催（2024/7/10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場におけるDX実現のための施策の協議 <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ導入（予定）状況を調査し課題の整理と、解決のためのヒントを模索する ・AIを含む今時のアプリやシステムについて引き続き情報共有を図り医療DXの推進に寄与する <p>『電子処方箋に関わるアンケート調査』の実施（2024/8/8～8/23） <ul style="list-style-type: none"> ・回答数12施設 <ul style="list-style-type: none"> ・『3rd DX Challenge Seminar in YAMAGATA』開催（2025/1/28） ～電子処方箋わかったこと わからないこと～ </p>
R 7 年度 にむけて	<ul style="list-style-type: none"> ・『DX Challenge Seminar in YAMAGATA』の継続開催 ・ChatGPTなど、新しい技術の可能性の探求 ・電子処方箋の進捗状況の確認

一般社団法人山形県病院薬剤師会 令和6年度活動決算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		5,636,000
正会員受取会費	4,476,000	
特別会員受取会費	144,000	
準会員受取会費	36,000	
賛助会員受取会費	980,000	
2. 事業収益		588,285
研修会参加費	178,285	
研修会共催費	290,000	
広報誌広告費	120,000	
3. 受取日病薬還付金	523,600	523,600
4. 受取寄付金	0	0
5. その他収益		154,217
利息	3,456	
返金（法人税）	50,000	
薬学大会経費（県薬より）	90,761	
その他	10,000	
経常収益計		6,902,102
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
会務執行部賃金	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
旅費交通費	28,460	
会場費	28,570	
研修会認定申請費	108,703	
講師謝礼	141,600	
雑費	69,801	
その他経費計	377,134	
事業費計		377,134
2. 管理費		
(1) 人件費		
会務執行部賃金	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
旅費交通費	123,025	
会場費	107,450	
広報誌作成費	1,059,971	
日病薬負担金	3,080,000	
東北病薬負担金	50,000	
日病薬東北ブロック学術大会負担金	200,000	
薬学大会負担金	180,862	
日赤社協力費	35,000	
事務局費	676,710	
雑費	177,539	
55周年記念事業記念誌	869,275	
病院薬剤師コントロールセンター	1,260,516	
その他	93,087	
その他経費計	7,913,435	
管理費計		7,913,435
経常費用計		8,290,569
当期正味財産増減額		-1,388,467
期首引継財産額		8,813,962
次期繰越正味財産額		7,425,495

令和7年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会活動計画

1. 医療安全及び医薬品の適正使用に関する事項

本会のホームページやLINEWORKS等の手段により、タイムリーな情報発出に努めるとともに、医薬品安全管理に関する研修会の開催等を通じて、医療安全・医薬品適正使用に関連する情報やインシデント・アクシデント事例を共有することで、業務の安全水準を高めて持続的な県民の医療の質の確保に貢献する。

2. 薬剤師業務に係る情報の交換及び連絡、調査に関する事項

日常業務に役立つ取り組みや成功事例、解決できていない課題について、会員間で参考にしやすい環境を整えるとともに、必要であれば調査を施し、現状の把握と評価を行うとともに課題を改善していく。

3. 機関誌及び図書等の刊行並びに情報提供に関する事項

県病薬やまがた広報誌を発行し、各施設および会員の紹介を通じ、会員間の親近感を高めるとともに、日々の医薬品情報から本会の運営に関する内容まで、手に取って触れていただく価値ある広報誌を提供するとともに、会員にとって有用なホームページになるよう工夫を講じていく。SNSを活用した情報提供を推進する。

4. 生涯研修及び各種認定に関する事項

会員が広い領域の研鑽の機会を確保できるようサポートをする。入職後早期から生涯を通じた研鑽の重要性を理解できるよう、新任者に対する研修会を実施する。また、がん、緩和、感染制御、精神科、周産期、糖尿病関連領域を含む専門領域についても各種認定を取得できるよう可能な支援をしていく。

5. 学術大会、研修会等の開催及び協力に関する事項

本会主催の学術大会、山形県薬学大会、日病薬東北ブロック学術大会の『3大会』において、会員が日常の成果を積極的に発表できるよう工夫していく。

日病薬病院薬学認定薬剤師制度の研修会実施機関として、魅力ある研修会の開催を心掛け、年間30本以上を設定する。

6. 行政機関及び関係諸団体との連携及び協力に関する事項

本県には当会も含めた薬業関連6団体で組織する『山形県薬事運営協議会』が存在し、本会議では山形県の担当者を交えて協議や意見交換を行っている。今後とも関係性を重視しながら、継続して目の前の課題解決に注力していく。

また、各自治体や関連団体との連携についても、固定概念にとらわれず大局観に立った協議や取り組みを実践していく。

7. 薬学教育の向上に関する事項

薬学生の病院実務実習について、山形県薬剤師会と協調しながら充実した実務実習になるように

本会の当該委員会や病院・薬局実務実習東北地区調整機構を通じて進めていく。

8. 災害時における医薬品の確保及び応急活動に関する事項

災害対策に関連する研修会を実施するとともに、情報集約ツール（被害状況報告フォーム）の運用方法の確立と訓練開催を行う。山形県病院薬剤師会災害対策マニュアル作成を検討する。山形県や山形県薬剤師会と連携し、災害薬事コーディネーターの育成を支援する。災害時における薬剤師の役割を広く認識することで、災害時の職能発揮に生かす。

9. 会員の職能の向上に関する事項

日常業務における多職種間のタスクシフティング・タスクシェアリングを検討及び推進していくなかで、潜在的な職能の可能性を探求し、未来的思考で議論していく。

10. 会員の地位向上及び待遇改善等に関する事項

現在の社会的地位の評価を認識し、職能を発揮した存在アピールと、相当の待遇改善について、その機会を捉えて行動していく。

11. 会員の相互扶助、相互親睦、福利厚生に関する事項

顔の見える相談しやすい会員間の交流をモットーに、様々な工夫を講じる。

12. 薬剤師不足の解決に関する事項

山形県下の多くの病院が抱える薬剤師不足を解消するため、山形県及び山形県薬剤師会と連携しながら、山形県における薬剤師の需給調査の実施や効果的な薬剤師確保策を推進する。

13. その他本会の目的を達成するのに必要な事項

公平かつ透明性のある会の運営に努め、必要な規程等を整備するとともに、それぞれの役割を正しく理解し、本会の目的達成のために、会員一丸となって活気あふれる活動が進められるよう組織運営を行う。

一般社団法人山形県病院薬剤師会 令和7年度活動予算書

令和7年4月1日～令和8年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費	2,604,000	
正会員受取会費	1,480,000	
特別会員受取会費	48,000	
準会員受取会費	36,000	
賛助会員受取会費	1,040,000	
2. 事業収益	620,000	
研修会参加費	200,000	
研修会共催費	300,000	
広報誌広告費	120,000	
3. 受取日病薬還付金	519,520	519,520
4. 受取寄付金	0	0
5. その他収益	1,682,782	1,682,782
病院薬剤師コントロールセンター(県から)	1,682,782	
経常収益計		5,426,302
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
会務執行部賃金	200,000	
人件費計	200,000	
(2) その他経費		
旅費交通費	50,000	
会場費	50,000	
研修会認定申請費	150,000	
講師謝礼	150,000	
雑費	70,000	
その他経費計	470,000	
事業費計		670,000
2. 管理費		
(1) 人件費		
会務執行部賃金	200,000	
人件費計	200,000	
(2) その他経費		
旅費交通費	150,000	
会場費	150,000	
広報誌作成費	1,000,000	
東北病薬負担金	50,000	
日病薬東北ブロック学術大会負担金	200,000	
薬学大会負担金	100,000	
日赤社協力費	35,000	
事務局費	1,000,000	
雑費	200,000	
その他	60,000	
その他経費計	2,945,000	
管理費計		3,145,000
経常費用計		3,815,000
当期正味財産増減額		1,611,302
期首引継財産額		7,425,495
次期繰越正味財産額		9,036,797

▼表彰（令和6年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会以降）

令和6年度薬事功労者厚生労働大臣表彰（令和6年10月21日）

羽太 光範 先生
岡嵯千賀子 先生

令和6年度薬事功労者山形県知事感謝状受賞（令和6年11月13日）

鎌田 敬志 先生（鶴岡市立荘内病院）
國井 健 先生（北村山公立病院）

令和6年度山形県病院薬剤師会感謝状

羽太 光範 先生
大石 玲児 先生
鎌田 敬志 先生（鶴岡市立荘内病院）
國井 健 先生（北村山公立病院）

令和7年度永年会員（25年）表彰

齋藤 寛 先生（山形さくら町病院病院）
田中 大輔 先生（鶴岡市立荘内病院病院）
大類あかね 先生（北村山公立病院）
小方 祥光 先生（あさひ薬局）

第4回山形県病院薬剤師会学術大会（令和6年2月8日）

◎優秀発表賞

佐藤 智也 先生（山形済生病院 勤務）

「転院時の薬剤情報の共有—未来志向の取り組み—」

○佐藤 智也、本田 貴朗、眞木 秀子、石垣 俊樹、板垣 有紀、西村 雅次、羽太 光範
山形済生病院

令和6年度優秀論文賞

◎最優秀論文賞

「院外処方せんにおける疑義照会簡素化プロトコルの評価と課題」

岡田 美桜 先生（山形市立病院済生館）

◎優秀論文賞

「散薬調剤ロボット導入による業務効率化の検討」

田中 沙織 先生（山形市立病院済生館）

令和6年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会役員 (32名)

会長

山口 浩明	山形大学医学部附属病院	山形エリア
-------	-------------	-------

副会長 (3名)

伊藤 秀悦	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
渡邊 茂	米沢市立病院	置賜エリア
松田圭一郎	山形市立病院済生館	山形エリア

理事 (26名)

阿部 桂子	山形県・酒田市病院機構日本海総合病院	庄内エリア*
鎌田 敬志	鶴岡市立荘内病院	庄内エリア
大川 賢明	医療法人徳洲会・庄内余目病院	庄内エリア
庄司 喜恵	山形県立新庄病院	最上エリア*
小林 由佳	山形県立新庄病院	最上エリア
八楯 雅昭	寒河江市立病院	村山エリア*
國井 健	北村山公立病院	村山エリア
高橋 和枝	山形県立河北病院	村山エリア
芦野 均	山形県立中央病院	山形エリア*
大熊 良和	山形県立中央病院	山形エリア
金野 昇	公立学校共済組合・東北中央病院	山形エリア
志田 敏宏	山形大学医学部附属病院	山形エリア
小倉 次郎	山形大学医学部附属病院	山形エリア
佐藤 一真	山形大学医学部附属病院	山形エリア
羽太 光範	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
板垣 有紀	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
石山 晶子	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
遠藤 清香	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
中村雄太郎	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
延川 正雄	山形市立病院済生館	山形エリア
市川 勇貴	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
小林 聖子	医療法人篠田好生会・千歳篠田病院	山形エリア
水口 真知	公立高島病院	置賜エリア*
倉本美紀子	公立置賜総合病院	置賜エリア
相馬 直記	一般財団法人三友堂病院・三友堂リハビリテーションセンター	置賜エリア
赤尾 眞	米沢市立病院	置賜エリア

*：エリアマネージャー

監事 (2名)

大石 玲児	一般財団法人三友堂病院
芦埜 和幸	医療法人財団明理会・山形ロイヤル病院

令和7年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会役員 (31名)

会長

山口 浩明	山形大学医学部附属病院	山形エリア
-------	-------------	-------

副会長 (3名)

伊藤 秀悦	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
松田圭一郎	山形市立病院済生館	山形エリア
西村 雅次	山形済生病院	山形エリア

理事 (25名)

阿部 桂子	山形県・酒田市病院機構日本海総合病院	庄内エリア*
大川 賢明	医療法人徳洲会・庄内余目病院	庄内エリア
富樫 敦子	鶴岡市立荘内病院	庄内エリア
庄司 喜恵	山形県立新庄病院	最上エリア*
小林 由佳	山形県立新庄病院	最上エリア
田中 久美	寒河江市立病院	村山エリア*
押切佳代子	北村山公立病院	村山エリア
高橋 和枝	山形県立河北病院	村山エリア
金野 昇	公立学校共済組合・東北中央病院	山形エリア*
石山 晶子	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
板垣 有紀	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
市川 勇貴	医療法人篠田好生会・篠田総合病院	山形エリア
稲毛あずさ	山形大学医学部附属病院	山形エリア
遠藤 清香	社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院	山形エリア
大熊 良和	山形県立中央病院	山形エリア
小倉 次郎	山形大学医学部附属病院	山形エリア
小林 聖子	医療法人篠田好生会・千歳篠田病院	山形エリア
佐藤 一真	山形大学医学部附属病院	山形エリア
志田 敏宏	至誠堂総合病院	山形エリア
菅原 拓也	山形市立病院済生館	山形エリア
延川 正雄	山形市立病院済生館	山形エリア
水口 真知	公立高畠病院	置賜エリア*
赤尾 眞	米沢市立病院	置賜エリア
倉本 美紀子	公立置賜総合病院	置賜エリア
相馬 直記	一般財団法人三友堂病院・三友堂リハビリテーションセンター	置賜エリア

*：エリアマネージャー

監事 (2名)

芦埜 和幸	医療法人財団明理会・山形ロイヤル病院
渡邊 茂	米沢市立病院

一般社団法人山形県病院薬剤師会 会員名簿

令和7年10月31日現在

正会員

〈庄内エリア〉

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
山形県酒田市病院機構 日本海酒田リハビリテーション病院 〒998-0843 酒田市千石町2丁目3番20号 TEL 0234-23-1111 (114床)			
佐藤 ゆかり	東北大 H13	百瀬 里穂	東北医薬大 H30
医療法人社団順仁堂 順仁堂遊佐病院 〒999-8301 飽海郡遊佐町遊佐字石田7番地 TEL 0234-72-2522 (74床)			
佐藤 素子	北医大 H8	佐藤 忠男	東北薬大 S40
医療法人 酒田東病院 〒998-0878 酒田市こあら3丁目5番2号 TEL 0234-22-9611 (120床)			
吉岡 美佳	東北薬大 H9 静岡県大(修)H11		
医療法人山容会 山容病院 〒998-0074 酒田市浜松町1番7号 TEL 0234-33-3355 (220床)			
池田 光	東北薬大 H25		
山形県酒田市病院機構 日本海総合病院 〒998-8501 酒田市あきほ町30番地 TEL 0234-26-2001 (590床)			
阿部 桂子	新潟薬大 H3	草島 宏平	明薬大 H21 明薬大(修)H23
成田 康之	昭薬大 H1	古木 俊也	東北薬大 H25
粕谷 法子	東北薬大 H6	伊藤 雅人	東北薬大 H26
阿部 美佐緒	東北薬大 S62	武田 健史	新潟薬大 H29
五十嵐 徹	金沢大 H3	河口 尚史	東薬大 H30
茂木 佳子	東日本大 H3	本間 美久子	新潟薬大 H30
菅原 優子	東北薬大 H7	加賀 真樹	東北医薬大 H30
足達 昌博	東北薬大 H7	佐藤 花奈	東北医薬大 H30
成田 さと子	東北薬大 H8	田村 朋香	東北医薬大 R2
小竹 美穂	新潟薬大 H13	渡邊 太貴	新潟薬大 R2
伊藤 文俊	昭薬大 H3	小野寺 一誠	千葉科学大 R3
高橋 美香	道薬大 H13 星薬大(修)H15	阿部 麻梨恵	東北医薬大 R4
佐藤 賢	富山医薬大 S60	三塚 寛也	山東理薬大 R7
佐藤 萌子	明薬大 H20 明薬大(修)H22	鈴木 絢女	東北医薬大 R7
今井 法子	明薬大 H21	白幡 雅章	北里大 S57
佐藤 遼	岐阜薬大 H21	松本 優衣	東北医薬大 H29
山本 桂	国医療大 H22		

氏 名 出身大学・卒業年 氏 名 出身大学・卒業年

医療法人健友会 本間病院 〒998-0044 酒田市中町3丁目5番23号 TEL 0234-22-2556 (158床)

池田 広子	東北薬大 H17	菅原 真帆	日薬大 R6
大沼 あゆみ	東理大 H20	高橋 真己	東北薬大 S63
川崎 芙季子	横薬大 H25	石川 し乃	共立薬大 H17
渋谷 幸悦	城西国大 R2		

医療法人徳洲会 庄内余目病院 〒999-7782 東田川郡庄内町松陽1丁目1番1号 TEL 0234-43-3434 (324床)

大川 賢明	東北薬大 S62	船山 裕和	青森大 H21
加藤 八重	富山医薬大 H10 富山医薬大(修)H12	岡部 加奈	東北薬大 H24
岡部 麻衣子	道薬大 H18	矢島 弘基	城西大 R3
荒井 泰雄	北医大 H20		

医療生活協同組合やまがた 鶴岡協立病院 〒997-0816 鶴岡市文園町9番地34号 TEL 0235-23-6060 (236床)

佐藤 貴大	東北薬大 H16	斎藤 尚子	東北薬大 H8
-------	----------	-------	---------

鶴岡市立荘内病院 〒997-8515 鶴岡市泉町4番20号 TEL 0235-26-5111 (521床)

富樫 敦子	富山医薬大 H9	吉田 諒	東北薬大 H25
五十嵐 昌美	昭和大 H7	植村 奈緒瑠	奥羽大 H28
田中 庸	昭薬大 H9	大池 裕貴	東北薬大 H27
田中 大輔	日大 H8	渡部 秀	横薬大 H30
坂田 奈緒美	昭薬大 H14 昭薬大(修)H16	佐藤 純	東北医薬大 H30
五十嵐 康郎	金沢大 H18 金沢大(修)H20	清野 秀喜	新潟薬大 R4
佐藤 拓也	道薬大 H18	小野 詩帆	明薬大 R6
荒井 真智子	北医大 H20	今泉 友臣	新潟薬大 R4
高橋 直子	東北薬大 H21	小野寺 春奈	山東理薬大 R7
松田 千佳	北陸大 H24	鎌田 敬志	東北薬大 S63

山形県立こころの医療センター 〒997-8510 鶴岡市北茅原町13-1 TEL 0235-64-8100 (213床)

佐藤 幸	東北大 H9	清野 菜里子	東北医薬大 H30
神山 慶子	千葉大 H11		

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 〒997-0752 鶴岡市湯田川字中田35番地10号 TEL 0235-38-5151 (120床)

渡部 弘	城西大 S54	清野 由利	東北薬大 S60
------	---------	-------	----------

〈最上エリア〉

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院 〒996-0041 新庄市大字鳥越字駒場4623番地 TEL 0233-23-3434 (270床)			
中嶋 知英	北陸大 H19	榎 静香	北医大 H24
最上町立最上病院 〒999-6101 最上郡最上町大字向町64番地3号 TEL 0233-43-2112 (60床)			
結城 智博	道薬大 H9		
山形県立新庄病院 〒996-8585 新庄市金沢720番地の1 TEL 0233-22-5525 (325床)			
庄司 喜恵	昭薬大 H2	後藤 夢	東北医薬大 R3
岸 ひとみ	東北薬大 H5	原田 莉沙	新潟薬大 R3
小林 由佳	東薬大 H8	鈴木 大雅	国医療大 R4
石山 靖憲	星薬大 H10	高梨 野乃	東北医薬大 R5
大泉 崇	日大 H24	岸 真雪子	東北医薬大 R6
京谷 香菜	城西大 H24	齊藤 和真	東北医薬大 R6
丹野 智範	東北薬大 H25	工藤 礼菜	東北医薬大 R7
医療法人社団清明会 PFCHOSPITAL 〒996-0053 新庄市大字福田806番地 TEL 0233-22-2047 (180床)			
田澤 義江	東北薬大 H3		

〈村山エリア〉

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
朝日町立病院 〒990-1442 西村山郡朝日町大字宮宿843番地 TEL 0237-67-2125 (40床)			
庄田 聡美	千葉大 H12	西村 孝一郎	東北薬大 S60
尾花沢市中央診療所 〒999-4224 尾花沢市新町3丁目2番20号 TEL 0237-23-2010			
服部 貴	東北薬大 S62		
医療法人敬愛会 尾花沢病院 〒999-4222 尾花沢市大字臈気695番地3号 TEL 0237-23-3637 (152床)			
武田 拓也	道薬大 H10		
北村山公立病院 〒999-3702 東根市温泉町2丁目15番1号 TEL 0237-42-2111 (290床)			
服部 豊	東北薬大 H1	工藤 由起	帝京大 H20 東北大(修)H22
押切 佳代子	東北薬大 H3	川井 隆太郎	東北薬大 H26
大類 あかね	東北薬大 H9	押切 渉	千葉科学大 H28
國井 健	道薬大 S63	畠山 隼	東北医薬大 H31
平 浩幸	北陸大 H15	村形 紗英	東北医薬大 R2
齊藤 麻衣子	第一薬大 H13	管 辰哉	東北医薬大 R4
植松 聡志	北陸大 H19	仲嶋 祐希	城西大 R4

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
寒河江市立病院 〒991-8508 寒河江市大字寒河江字塩水80番地 TEL 0237-86-7774 (98床)			
田中久美	東北薬大 H3	中村悠香	東北薬大 H19
小嶋文良	東北大 S56 東北大(修)S58	阿部千聖	東北医薬大 R7
医療法人風心堂 小原病院 〒999-3511 西村山郡河北町谷地月山堂151番地1号 TEL 0237-72-7811 (176床)			
堀美恵子	日大 H2		
西川町立病院 〒990-0702 西村山郡西川町海味581番地 TEL 0237-74-2211 (28床)			
佐竹公子	日大 H9	高橋彰次郎	東北薬大 H25
医療法人篠田好生会 天童温泉篠田病院 〒994-0024 天童市鎌田1丁目7番1号 TEL 023-653-5711 (120床)			
鈴木純一	明薬大 H6	小松弘	東北薬大 H28
半田貢康	東北薬大 H3		
天童市民病院 〒994-0047 天童市駅西5丁目2番1号 TEL 023-654-2511 (84床)			
管祐司	東北薬大 S63	星野淳	東北薬大 H3
山形県立河北病院 〒999-3511 西村山郡河北町谷地字月山堂111番地 TEL 0237-73-3131 (136床)			
高橋和枝	明薬大 H3	海藤真理子	富山大 H15 東北大(修)H17
齋藤正子	東北薬大 H7	奥山俊介	東薬大 H17
後藤恵子	東北大 H8	佐竹周平	北医大 R2
医療法人財団明理会 山形ロイヤル病院 〒999-3712 東根市大森2丁目3番6号 TEL 0237-43-8080 (322床)			
芦埜和幸	東北薬大 S57	鈴木瑛里加	東北医薬大 R5
阿部里子	日薬大 H20	佐藤秀樹	東北薬大 S53
医療法人社団丹心会 吉岡病院 〒994-0026 天童市東本町3丁目5番21号 TEL 023-654-1188 (126床)			
高橋功子	日大 H7		

〈山形エリア〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年
 医療法人社団 小白川至誠堂病院 〒990-0034 山形市東原町1丁目12番26号 TEL 023-641-6075 (148床)

廣瀬 諭 日大 H11

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院 〒999-3161 上山市弁天2丁目2番11号 TEL 023-672-8282 (183床)

丘 龍 祥 東北薬大 H4 東北薬大(博)H20 芦 立 昌 文 北陸大 H25
 吉 田 滋 穰 道薬大 H11 道薬大(修)H13 太 田 七 恵 東北大 H23 東北大(修)H25
 金子 敦 子 東北薬大 H24 高 橋 尚 史 日大 H29
 青 木 一 真 東北薬大 H24

社会医療法人松柏会 至誠堂総合病院 〒990-0045 山形市桜町7番地44号 TEL 023-622-7181 (199床)

志 田 敏 宏 東北薬大 H15 東北薬大(修)H17 丹 野 杏 子 東北薬大 H26
 齊 藤 信 之 東北薬大 H12 杉 本 莉 利 子 東北薬大 H27
 山 田 千 尋 奥羽大 H25

医療法人篠田好生会 篠田総合病院 〒990-0045 山形市桜町2番地68号 TEL 023-623-1711 (386床)

伊 藤 秀 悦 日大 H1 渡 邊 広 大 東北医薬大 H31
 市 川 勇 貴 東北薬大 H18 東北薬大(修)H20 森 谷 雄 介 東北医薬大 R3
 笹 原 大 司 第一薬大 H16 海 野 夏 未 医療創生大 R7
 和 智 麻 唯 子 東北薬大 H21 片 桐 彩 喜 東北薬大 H24
 佐 藤 令 菜 いわき大 H25

医療法人篠田好生会 千歳篠田病院 〒990-0811 山形市長町2丁目10番56号 TEL 023-684-5331 (300床)

鈴木 聖 子 東北薬大 H11 原 宏 子 東北薬大 H27
 小林 聖 子 富山大 H20

医療法人東北医療福祉会 山形厚生病院 〒990-2362 山形市大字菅沢字鬼越255番地 TEL 023-645-8118 (312床)

田 辺 雄 一 東北薬大 H11

公立学校共済組合 東北中央病院 〒990-8510 山形市和合町3丁目2番5号 TEL 023-623-5111 (242床)

金 野 昇 東北薬大 H15 東北薬大(修)H17 木 村 公 美 国医療大 H31
 大 澤 千 鶴 子 東北薬大 H1 海 和 颯 東北医薬大 H31
 宮 崎 衛 江 東北薬大 H4 伊 藤 聡 美 岩手医大 R2
 小 林 武 志 東北薬大 H19 東北大(修)H21 山 本 セ リ 一 ナ 東北医薬大 R4
 大 熊 理 子 奥羽大 H21 横 川 玲 雄 新潟薬大 R4
 黒 田 晋 平 青森大 H26 中 川 尚 城西大 R5

社会医療法人二本松会 かみのやま病院 〒999-3103 上山市金谷字下河原1370番地 TEL 023-672-2551 (332床)

高 梨 由 紀 第一薬大 H7 阿 部 和 輝 東北薬大 R7
 柏 利 育 摂南大 H13

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
医療法人二本松会 山形さくら町病院 〒990-0045 山形市桜町2番地75号 TEL 023-631-2315 (339床)			

齋藤寛	東北薬大 H10	鈴木創	第一薬大 H19
永井瑛恵	福山大 H20		

山形県立中央病院 〒990-2292 山形市青柳1800番地		TEL 023-685-2626 (609床)	
芦野均	東北薬大 S63	渡辺祐太	東北薬大 H28
小野裕紀	東北大 H7 東北大(修)H9	山田浩貴	東北医薬大 H29
田村敦子	東北薬大 H5	武田桐佳	東北医薬大 H29
齋藤智美	明薬大 H8	鈴木蘭	明薬大 H31
小田部友恵	東北大 H10	上林愛	新潟薬大 H31
小関環	東北大 H12	石澤大輔	東北医薬大 H31
遠藤尚美	東北大 H14 東北大(修)H16	阿部咲織	奥羽大 R3
寺崎敦子	東北大 H15 東北大(修)H17	朝倉綾香	東北医薬大 R2
大熊良和	奥羽大 H22	横沢沙紀	新潟薬大 R2
荒川麻美	東北薬大 H21	東海林睦美	東北医薬大 R2
齋藤博子	国医療大 H24	石名坂竜彦	東北医薬大 R3
樋口安耶	国医療大 H25	櫻井はるか	武蔵野大 R5
後藤真吾	いわき大 H28	佐藤沙紀	東北医薬大 R6
小幡瞳	城西大 H26	佐藤怜未	東北薬大 R6
高木荣美子	新潟薬大 H28	土田貴明	東北薬大 R6
石川千尋	明薬大 H26	岩瀬千晴	静岡県大 R7

社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院 〒990-8545 山形市沖町79番1		TEL 023-682-1111 (411床)	
西村雅次	東北薬大 H3	佐藤清貴	東北薬大 H28
板垣有紀	東北薬大 H5	高橋優歩	国医療大 H29
石垣俊樹	帝京大 H12	今田良樹	東北医薬大 H30
石山晶子	東北薬大 H16	遠藤汐梨	東北医薬大 H30
眞木秀子	千葉大 H14 千葉大(修)H16	大沼奈那	東北医薬大 H31
遠藤清香	東北薬大 H17	佐藤奈実	国医療大 H31
渋谷泉	東北薬大 H1	大場有紗	東北医薬大 R3
佐藤智也	東理大 H17	山口可奈	国医療大 R3
本田貴朗	東薬大 H21	小倉花南	東北医薬大 R4
中村雄太郎	東北薬大 H21	川合里奈	東北医薬大 R4
吉田崇志	東北薬大 H24	松田啓孝	医療創生大 R4
菅野澄佳	昭薬大 H25	矢野紅美子	東北医薬大 R4
清水美保	東北薬大 H25	山本達也	東北医薬大 R4
田口未菜	東北薬大 H25	渡部拳人	東北医薬大 R4
廣川太士朗	明薬大 H25	那須結衣	明薬大 R5
小林正人	星薬大 H25	小林瑠夏	東北医薬大 R6
安部圭紀	日大 H26	深瀬可奈子	城西国大 R5
山下勇輝	昭和大 H27	吉岡大河	新潟薬大 R3

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
山形市立病院 済生館 〒990-8533 山形市七日町1丁目3番26号 TEL 023-625-5555 (528床)			
松田 圭一郎	東北薬大 H4	荒井 潤	東北薬大 H27
延川 正雄	東北薬大 H9	五十嵐 綾乃	東北医薬大 H30
矢吹 むつみ	東北薬大 S62	志田 幸平	静岡県大 H28 静岡県大(修)H30
加川 美由紀	東北大 H12	杉本 拓哉	東北薬大 H27
菅原 拓也	北陸大 H14	岡田 美桜	東北医薬大 R3
齋藤 順	新潟薬大 H16	田中 沙織	東北医薬大 R3
有川 真理	北陸大 H16	海谷 志保	東北医薬大 R4
関口 徳志	明薬大 H15	舟生 佳奈子	東北医薬大 R4
後藤 純一	東北薬大 H20	渡邊 倫子	東北医薬大 R5
佐東 未咲	東北薬大 H24	鵜浦 史江	東北薬大 R7
森岡 亜耶	東北薬大 H24	長谷川 凌	東北薬大 R7
鈴木 麻友	東北薬大 H26	柴田 亮子	東北薬大 S56
設楽 里恵	東北薬大 H26		

山形大学医学部附属病院 〒990-9585 山形市飯田西2丁目2番2号 TEL 023-633-1122 (637床)			
山口 浩明	東北大 H11 京都大(博)H16	山口 亜耶子	東北大 H19 東北大(修)H21
小倉 次郎	北大 H18 北大(修)H20	提箸 尚貴	東薬大 H29 山形大(博)R3
金子 基子	東北薬大 H17 東北大(修)H19	三浦 伸晃	東北医薬大 R3
佐藤 紀宏	東理大 H18 東北大(博)H27	岸 承俊	岩手医大 R3
佐藤 一真	東北薬大 H25	西村 卓真	岩手医大 R4
兼平 幸宗	奥羽大 H26 北科大(博)H30	木村 恵子	岩手医大 R5
高橋 信明	東北薬大 S63	松田 一将	昭薬大 R6
須藤 将裕	道薬大 H24 山形大(博)R3	八 鋏 那名字	東薬大 R6
稲毛 あずさ	岩手医大 H27	中 寫 太郎	山東理薬大 R6
鏡 優貴	東北薬大 H28	古澤 南実	東北医薬大 R6
田中 聡一郎	横薬大 H25	中川 恵美	北里大 H8
安藤 智七美	東北医薬大 H30	杉山 雄紀	北陸大 R2 金沢大(博)R7
今橋 良太	奥羽大 H30	福井 愛佳	東北医薬大 R6
佐藤 友香子	昭薬大 H30	中川 肇	城西大 R7
小松 彩可	星薬大 R2	今野 奈央子	北医大 H10 福島県医大(博)H20
白井 英和	東北大 R2	海老原 光孝	東北大 S58 東北大(修)S60

独立行政法人国立病院機構 山形病院 〒990-0876 山形市行才126番地2号 TEL 023-684-5566 (300床)			
三上 祥博	東北薬大 H4	早川 奏子	東北医薬大 R3
坂内 英樹	東北薬大 H17	伊藤 宥加	東北医薬大 R3
工藤 慎也	昭和大 H21		

医療法人公徳会 若宮病院 〒990-2451 山形市吉原2丁目15番3号 TEL 023-643-8222 (113床)			
小柳 康弘	昭薬大 H11 昭薬大(修)H13		

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
医療法人徳洲会 山形徳洲会病院 〒990-0834 山形市清住町2丁目3番51号 TEL 023-647-3407 (292床)			

太田 香	東理大 H15	大宮 圭典	星薬大 H20
熊谷 綾	東北薬大 H24		

医療法人社団清永会 矢吹病院 〒990-0885 山形市嶋北4丁目5番5号 TEL 023-682-8566 (40床)			
--------------------------------------------------------------	--	--	--

有川 宗平	日大 H16	石垣 みどり	東北薬大 H16
加藤 容子	昭薬大 H9		

〈置賜エリア〉

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
公立置賜総合病院 〒992-0601 東置賜郡川西町大字西大塚2000番地 TEL 0238-46-5000 (470床)			

倉本 美紀子	東北薬大 H2	渡邊 大輔	奥羽大 H30
川井 美紀	新潟薬大 H6	岩瀬 希美	国医療大 R2
安部 一弥	城西大 H16	唐沢 美砂	日薬大 R2
小島 俊彦	城西大 H17 城西大(修)H19	松村 聡大	東北医薬大 R3
青木 梢太	東北薬大 H24	中野 里菜	東北医薬大 R6
太田 拓希	岐阜薬大 H25	舟山 莉央	岩手医大 R6
会田 俊	東薬大 H28	伊藤 雅茂	東北医薬大 R7

公立置賜長井病院 〒993-0002 長井市屋城町2番1号 TEL 0238-84-2161 (50床)			
------------------------------------------------------	--	--	--

横澤 大輔	昭薬大 H17	後藤 咲紀	東北薬大 H28
-------	---------	-------	----------

公立置賜南陽病院 〒992-0472 南陽市宮内1204番地 TEL 0238-47-3000 (50床)			
-------------------------------------------------------	--	--	--

安部 優子	東北薬大 H15	畠山 瑞季	東北医薬大 H31
-------	----------	-------	-----------

医療法人社団緑愛会 川西湖山病院 〒999-0145 東置賜郡川西町大字下奥田3796番地20号 TEL 0238-54-2100 (109床)			
--------------------------------------------------------------------------	--	--	--

山岸 靖彰	帝京大 H8 筑波大(修)H11		
-------	------------------	--	--

社会医療法人公徳会 佐藤病院 〒999-2221 南陽市柵塚948番地1号 TEL 0238-40-3170 (316床)			
---------------------------------------------------------------	--	--	--

近野 直子	新潟薬大 R2	今野 瑞葉	奥羽大 R3
-------	---------	-------	--------

三友堂病院 〒992-0033 米沢市福田町2丁目1-55 TEL 0238-24-3700 (199床)			
-------------------------------------------------------	--	--	--

相馬 直記	東北薬大 H10	永井 佑未子	国医療大 H29
香坂 和子	東邦大 S54	江口 弘晃	第一薬大 H18
中村 新	東北薬大 H21		

氏名	出身大学・卒業年	氏名	出身大学・卒業年
公立高島病院 〒992-0351 東置賜郡高島町大字高島386番地 TEL 0238-52-5070 (130床)			
水口真知	東北薬大 H5	阿部秀平	東北薬大 H26
入間弓佳	東北薬大 H16	泉妻颯士	東北医薬大 R4

特定医療法人 舟山病院 〒992-0027 米沢市駅前2丁目4番8号 TEL 0238-23-4435 (194床)			
泉妻宏治	東北薬大 S63	海老名勇	新潟薬大 S59
渡辺暁子	東北薬大 S54 山形大(修)H22	鬼満知弥	奥羽大 R3
岩崎京子	東北薬大 S53		

米沢市立病院 〒992-8502 米沢市相生町6番地36号 TEL 0238-22-2450 (322床)			
渡邊茂	東北薬大 S63	青木俊人	北陸大 H25
田中治子	東北薬大 H3	金子恵美	東北薬大 H27
安達健一	東北薬大 H3	埜洋史	東北医薬大 R2
松田尚子	東北薬大 H5	上杉有里奈	東北医薬大 R6
貴田清孝	北医大 H10 北医大(修)H12	嶋貫詞	東北医薬大 R5
赤尾真	北陸大 H17		

公徳会 米沢こころの病院 〒932-0119 米沢市アルカディア1丁目808番32 TEL 0238-27-0506 (114床)			
齋藤玄一	東北薬大 H4	本柳達也	明薬大 H24

独立行政法人国立病院機構 米沢病院 〒992-1202 米沢市大字三沢26100番1号 TEL 0238-22-3210 (220床)			
後藤興治	東北薬大 H7 東北薬大(修)H9	川村麻由子	道薬大 H15
小笠原陵	奥羽大 H27		

小国町立病院 〒999-1356 西置賜郡小国町大字あけぼの1丁目1番地 TEL 0238-61-1111 (26床)			
長坂幸広	東北薬大 S63	堺和幸	第一薬大 H14

白鷹町立病院 〒992-0831 西置賜郡白鷹町大字荒砥甲501番地 TEL 0238-85-2155 (57床)			
熊谷岳仁	北医大 H16	海老名純子	新潟薬大 S58
秋葉粧子	第一薬大 H17		

特別会員

氏 名 出身大学・卒業年

日新薬品株式会社 学術推進課 〒994-0001 天童市万代3番6-2号 TEL 023-658-6116

羽 太 光 範 東北薬大 S63

東邦薬品株式会社 米沢営業所 〒992-0011 米沢市中田町1241-3 TEL 0238-37-2917

大 石 玲 児 日大 S63

株式会社マルタケ 庄内営業所 〒997-1321 東田川郡三川町押切新田字足子90番地 TEL 0235-68-2113

庄 司 知 摩 城西大 S56

あさひ薬局 〒999-2241 南陽市郡山877番地3号 TEL 0238-43-2861

小 方 祥 光 東北薬大 H11

有限会社メディカほし薬局 新庄店 〒996-0035 新庄市鉄砲町3番地1号 TEL 0233-28-8693

星 利 佳 東北薬大 H13

ユニスマイル薬局うわまち 〒990-2483 山形市上町3-11-6 TEL 023-646-2293

土 田 昌 子 星薬大 H6

おいのもり調剤薬局 〒994-0013 天童市老野森1丁目5番29号 TEL 023-656-8535

加 藤 淳 東北薬大 H6

特別会員

岡 寄 千賀子 北大 S63

あおば薬局 〒998-0857 酒田市若浜町5番地1号 TEL 0234-43-1951

福 島 雅 幸 日大 H11

コーアイセイ株式会社 医薬品情報提供活動監督室 〒990-2495 山形市若葉町13-45

内 海 浩 東北薬大 H3 山形大(博)H29

在宅訪問薬局いわ 〒998-0859 酒田市大町7-16

石 川 大 介 東理大 H18

氏 名 出身大学・卒業年

なないろ薬局 〒992-0601 東置賜郡川西町大字西大塚1446-10 TEL 0238-27-7716

長谷川 隆 太 城西国大 H20

山形県庄内保健所 〒997-1392 東田川郡三川町大字横山字袖東19番地1号 TEL 0235-66-5664

五十嵐 有 里 東北薬大 H7

特別会員

柴 田 竜 希 青森大 H20

特別会員

鍋 島 優 佳 青森大 H30

山形県庄内総合支庁 〒997-1392 東田川郡三川町大字横山字袖東19番地1号 TEL 0235-66-5659

土 屋 沙 恵 東北医薬大 H30

アイン薬局南陽店 〒999-2221 南陽市柗塚1177 TEL 0238-50-0165

鈴 木 孝 典 東邦大 H21

準 会 員

氏 名 出身大学・卒業年

遠 藤 祐 喜 東薬大 H25
高 井 啓 一 東薬大 H20
筒 井 有 子 北医大 H11 北医大(修)H13
薄 羽 八 重 金沢大 H7 金沢大(修)H9

氏 名 出身大学・卒業年

佐 伯 和 毅 大薬大 H9 大薬大(修)H11
志 田 伸 子 東北薬大 H13
永 井 基 瑛 静岡県立大 H26

名誉会長・名誉会員・有功会員・顧問

名誉会長

白石 正 東北薬大 S52

名誉会員

星 盛 次 東北薬大 S32
田 中 章 東北薬大 S37
伊 藤 照 代 東北薬大 S36
高 梨 正 晴 東北薬大 S38
細 矢 政 男 東北薬大 S38
鈴 木 一 男 東北薬大 S39
竹 田 洋 子 東北薬大 S38
後 藤 利 行 東薬大 S42
遠 藤 智 也 東薬大 S44
東海林 徹 東北薬大 S49
兼 子 紀 子 星薬大 S45
島 津 憲 一 日大 S46
庄 司 好 子 北里大 S46

小笠原 威 東北薬大 S50
鈴木 啓 之 明薬大 S52
武 田 亨 昭和大 S49
佐 藤 秀 樹 東北薬大 S53
岩 瀬 啓 東日本大 S55
大 滝 和 幸 東北薬大 S53
本 間 俊 一 北大 S53
和 田 幸 治 東日本大 S55
豊 口 禎 子 東北大 S51
荒 井 浩 一 新潟薬大 S59
羽 太 光 範 東北薬大 S63
大 石 玲 児 日大 S63

有功会員

細 谷 順 東北大 S57

顧 問

齋 藤 栄 治 日大 S61

一般社団法人山形県病院薬剤師会 賛助会員名簿

(五十音順)

旭化成ファーマ株式会社	東邦薬品株式会社
あすか製薬株式会社	東北アルフレッサ株式会社
アストラゼネカ株式会社	東和薬品株式会社
エーザイ株式会社	鳥居薬品株式会社
岡崎医療株式会社	日医工株式会社
小野薬品工業株式会社	日新薬品株式会社
キッセイ薬品工業株式会社	ニプロ株式会社
協和キリン株式会社	日本化薬株式会社
クラシエ薬品株式会社	日本血液製剤機構
健栄製薬株式会社	日本ケミファ株式会社
コーアイセイ株式会社	日本新薬
参天製薬株式会社	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
株式会社ジェイ・エム・エス	ノボ ノルディスクファーマ株式会社
株式会社スズケン	株式会社バイタルネット
ゼリア新薬株式会社	久光製薬株式会社
第一三共株式会社	扶桑薬品工業株式会社
大鵬薬品工業株式会社	マルホ株式会社
田辺三菱製薬株式会社	株式会社マルタケ
株式会社ツムラ	Meiji Seika ファルマ株式会社
テルモ株式会社	持田製薬株式会社
株式会社トーショー	

一般社団法人山形県病院薬剤師会 定款

令和3年3月11日 作 成
令和3年5月21日 変 更

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、一般社団法人山形県病院薬剤師会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を山形県山形市に置く。

2 本会は、理事会の決議によって、従たる事務所を設置することができる。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は、一般社団法人日本病院薬剤師会との連携のもと、山形県内の病院、診療所、介護保険施設に勤務する薬剤師の倫理及び学術水準を高め、質の高い薬物療法の確保を図ることにより、山形県民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 医療安全及び医薬品の適正使用に関する事項
- (2) 薬剤師業務に係る情報の交換及び連絡、調査に関する事項
- (3) 機関誌及び図書等の刊行並びに情報提供に関する事項
- (4) 生涯研修及び各種認定に関する事項
- (5) 学術大会、研修会等の開催及び協力に関する事項
- (6) 行政機関及び関係諸団体との連携及び協力に関する事項
- (7) 薬学教育の向上に関する事項
- (8) 災害時における医薬品の確保及び応急活動に関する事項
- (9) 会員の職能の向上に関する事項
- (10) 会員の地位向上及び待遇改善等に関する事項
- (11) 会員の相互扶助、相互親睦、福利厚生に関する事項
- (12) その他本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

(会員資格)

第5条 本会の会員は次の通りとする。

- (1) 正会員は、山形県内の病院、診療所、介護保険施設に籍を有し、本会の目的及び事業に賛同する薬剤師
- (2) 特別会員は、本会の目的及び事業に賛同する正会員以外の薬剤師
- (3) 賛助会員は、本会の目的及び事業に賛同し、事業を支援する団体又は個人
- (4) 名誉会員は、本会に特に顕著な功績のあった者で、理事会の推薦と総会の同意を経た者

- (5) 有功会員は、本会に功労のあった者で、理事会の推薦と総会の同意を経た者
- 2 正会員及び特別会員は一般社団法人 日本病院薬剤師会の会員である者とする。
- 3 名誉会員及び有功会員は終身に渡って委嘱することとする。
- 4 前1項第1号の正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律48号、以下「法人法」という）上の社員とする。

(手続き及び任意退会)

第6条 本会に入会しようとする者は、会長に所定の届出をしなければならない。

- 2 会員で退会しようとする者は、会長に所定の届出をすることにより、任意にいつでも退会する事ができる。
- 3 会員でその届出事項に変更を生じた場合は、前2項と同様に、その届出をしなければならない。

(会費等)

第7条 正会員、特別会員及び賛助会員は本会所定の会費及び負担金を支払う義務を負う。

- 2 名誉会員及び有功会員は会費の納入を要しない。
- 3 会費の額及び負担金並びに徴収方法は総会で定める。
- 4 既納の会費及び負担金は理由の如何を問わずこれを返還しない。

(会員資格の喪失)

第8条 第6条及び第9条の場合のほか、会員が次の各号の一に該当するときはその資格を喪失する。

- (1) 死亡したとき及び失踪宣告を受けたとき
- (2) 成年被後見人又は被保佐人になったとき
- (3) 賛助会員資格が消滅又は死亡したとき
- (4) 正会員、特別会員及び賛助会員が正当な理由なくして会費の納入を怠り且つ催告に応じないとき
- (5) 正会員もしくは特別会員が、一般社団法人 日本病院薬剤師会の会員の身分を失ったとき

(除名)

第9条 会員に本会の名誉を毀損し又は本会の目的趣旨に反するような行為があったときは、総会の決議を経て除名することができる。ただし、総会は議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

第10条 会員が第6条第2項、第8条及び第9条の規定によりその資格を喪失したときは、本会に対する権利を失い、義務を免れる。ただし、既に発生した未履行の義務は、これを免れることができない。

(正会員の権利)

第11条 正会員は、法人法に規定された次に掲げる権利を本会に対して行使することができる。

- (1) 法人法第14条第2項の権利（定款の閲覧等）
- (2) 法人法第32条第2項の権利（社員名簿の閲覧等）
- (3) 法人法第57条第4項の権利（社員総会の議事録の閲覧等）
- (4) 法人法第50条第6項の権利（社員の代理権証明書面等の閲覧等）
- (5) 法人法第51条第4項及び第52条第5項の権利（議決権行使書面の閲覧等）
- (6) 法人法第129条第3項の権利（計算書類等の閲覧等）
- (7) 法人法第229条第2項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）

- (8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項の権利（合併契約等の閲覧等）
- 2 理事又は監事は、その任務を怠ったときは、本会对し、これによって生じた損害を賠償する責任を負い、法人法第112条の規定にかかわらず、この責任はすべての正会員の同意がなければ免除することができない。

第4章 役員等

(役員の種類及び定数)

第12条 本会に次の役員を置く。

- (1) 理事25名以上30名以内
 - (2) 監事2名以内
- 2 理事のうち、1名を会長、3名以内を副会長とする。
- 3 会長をもって法人法上の代表理事とし、副会長をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(理事の職務・権限)

第13条 会長は法令及び定款の定めにより本会を代表し、業務を執行する。

- 2 副会長は会長を補佐し、業務を執行する。
- 3 理事は理事会を構成し、職務を執行する。

(監事の職務・権限)

第14条 監事は、次の各号に規定する職務を行う。

- (1) 理事の職務執行を監査する。
- (2) 本会の業務並びに財産及び会計の状況を監査する。
- (3) 総会及び理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べる。
- (4) 理事が不正の行為をし、若しくはその行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、これを理事会に報告しなければならない。
- (5) 前号の報告をするため必要があるときは、会長に理事会の招集を請求する。ただし、その請求があった日から5日以内に、2週間以内の日を理事会とする招集通知が発せられない場合は、直接理事会を招集することができる。
- (6) 理事が総会に提出しようとする議案、書類その他法令で定めるものを調査し、法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を総会に報告する。
- (7) 理事が本会の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、その行為によって本会に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、その理事に対し、その行為をやめることを請求することができる。
- (8) その他監事に認められた法令上の権限を行使する。

(役員を選任)

第15条 理事及び監事は、総会で選任する。

- 2 会長、副会長は理事会で選定する。
- 3 理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。
- 4 各理事について、その理事及び配偶者又は三親等以内の親族等である理事の合計数が、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。

5 役員に異動があったときは、2週間以内に登記しなければならない。

(役員等の任期)

第16条 役員等の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。ただし再任を妨げない。

2 欠員として補充された役員等の任期は前任者の残任期間とする。

3 役員等は第12条に定める定数を下回る場合には、任期満了又は辞任により退任した後も後任者が就任するまではその権利義務を有する。

(役員等の解任)

第17条 理事及び監事は総会の決議により、解任することができる。

2 会長、副会長は、理事会の決議により解職することができる。

(取引の制限)

第18条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

(1) 自己又は第三者のためにする本会の事業の部類に属する取引

(2) 自己又は第三者のためにする本会との取引

(3) 本会がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における本会とその理事との利益が相反する取引

2 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。

(役員等の報酬)

第19条 役員等には、その職務執行の対価として、報酬の支給や費用を弁償することができる。

2 前項の支給や弁償の基準は、総会において定める。

(名誉会長及び顧問)

第20条 本会に名誉会長及び顧問をおくことができる。名誉会長及び顧問は法人法上の役員に該当しない。

2 名誉会長は本会に特に顕著な功績のあった会長のうちから理事会の推薦と総会の同意を経て会長が委嘱し、その任期は終身とする。

3 名誉会長は会務を行わない。

4 顧問は理事会の承認を経て会長が委嘱し、その任期は委嘱した会長の在任期間とする。

5 顧問は会の運営に関し、会長のもとに就き、随時意見を述べることができる。

6 名誉会長及び顧問は無報酬とする。

第5章 総 会

(構成等)

第21条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

3 総会を法人法上の社員総会とする。

4 総会は通常総会及び臨時総会とする。

5 通常総会を法人法上の定時社員総会とする。

(開催、招集)

第22条 通常総会は、毎事業年度終了後3か月以内に開催する。ただし、やむを得ない事情のある時

は理事会の決議を経て変更することができる。

2 臨時総会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要であると認めたとき

(2) 正会員の議決権の5分の1以上より会議の目的を記載した書面により開催の請求があったとき

3 総会は理事会の決議に基づき会長が招集する。

4 会長は第2項第2号による請求があったときは、すみやかに臨時総会を招集しなければならない。

5 総会の招集は、開会の1週間前までに開会の日時及び場所並びに会議の目的である事項その他法令で定める事項を記載した通知を正会員に送付することで行う。

(権 限)

第23条 総会は次に掲げる事項及び法人法に定める事項を決議する。

(1) 事業計画及び予算の承認

(2) 事業報告及び計算書類の承認

(3) 理事及び監事の選任及び解任

(4) 理事及び監事の報酬等の額及びその支給基準

(5) 役員の実任の免除

(6) 名誉会員、名誉会長の選任

(7) 会員の除名

(8) 定款の変更

(9) 合併に関する事項

(10) 解散に関する事項

(11) 理事会が付議した事項

(12) その他この定款に定められた事項

2 前項の規定にかかわらず、個々の総会においてはあらかじめ目的として通知された事項以外の事項は決議を行うことができない。

(会議の成立)

第24条 総会は正会員数の過半数が出席しなければ開会することができない。

2 総会に出席できない正会員は、委任状その他代理権を証明する書面を本会に提出して、代理人(他の正会員に限る)にその議決権を代理行使させることができる。この場合、当該総会に出席したものとみなす。

3 名誉会長、顧問、名誉会員は総会に出席することができる。ただし、議決権は有しない。

(議 長)

第25条 総会の議長、副議長は総会ごとに正会員の中から選出する。

(決 議)

第26条 総会の決議は、正会員の過半数が出席し、出席正会員の過半数により行う。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事項の決議は、正会員の半数以上でかつ総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 監事の解任

(2) 会員の除名

(3) 定款の変更

- (4) 合併に関する事項
- (5) 解散に関する事項
- (6) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第27条 理事又は正会員が総会の目的である事項につき提案した場合において、正会員の全員が提案された議案につき書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する総会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 総会の議事については法令に基づき議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には議長、副議長及び議長が指名した出席正会員2名が記名押印をしなければならない。

第6章 理事会

(構成)

第29条 本会に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。
- 3 監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。

(開催、招集)

第30条 理事会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めた場合
 - (2) 会長以外の理事から会議の目的を記載した書面により開催の請求があったとき
 - (3) 前号の請求があった日から5日以内に、その日から2週間以内の日を理事会の日とする招集の通知が発せられない場合に、その請求をした理事が招集したとき
 - (4) 第14条第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき、又は監事が招集したとき
- 2 理事会は、会長が招集する。ただし、前項第3号により理事が招集する場合及び前項第4号により監事が招集する場合を除く。
- 3 会長は、第1項第2号又は第4号の規定による請求があったときは、その請求のあった日から2週間以内に理事会を招集しなければならない。この期間が経過しても招集されないときは、各理事又は監事が理事会を招集することができる。
 - 4 理事会の招集は、1週間前までに開会の日時及び場所並びに会議の目的である事項を通知することで行う。
 - 5 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、理事会は招集手続を経ることなく開催することができる。

(権限)

第31条 理事会は次に掲げる事項及び法人法に定める職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長の選定及び解職
- (4) その他重要な会務の決定

(会議の成立)

第32条 理事会は議決に加わることができる理事総数の過半数が出席しなければ開会することができ

ない。

(議 長)

第33条 理事会の議長は会長とする。ただし、会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは出席理事の中から選出する。

(決 議)

第34条 理事会の決議は、出席理事の過半数により行う。ただし、その決議に特別の利害関係を有する理事は、決議に加わることができない。

(決議の省略)

第35条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、理事の全員が提案した議案につき書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事はその提案に異議を述べたときはこの限りではない。

(議事録)

第36条 理事会の議事については法令に基づき議事録を作成しなければならない。

2 議事録には出席した会長及び監事が記名押印をしなければならない。

第7章 諮問機関

(会議の種類)

第37条 本会に諮問機関として常務理事会を置く。

2 常務理事会は総会及び理事会の権限を侵すものではないものとする。

(常務理事会)

第38条 常務理事会は会長、副会長をもって組織する。

2 常務理事会は会長、副会長の過半数の出席がなければ開会することができない。

3 常務理事会は理事会より委任された事項及び会長が理事会に付議する事項を協議し、理事会に報告を行う。

4 常務理事会は会長が必要な場合に招集して、その議長となる。

第8章 委員会および部会

(構 成)

第39条 理事会の補助機関として委員会および部会を置くことができる。

2 委員会及び部会は総会及び理事会の権限を侵すものではないものとする。

3 委員会及び部会に委員を置くことができる。

4 委員は理事会の承認を経て会長が委嘱する。

5 委員会及び部会に関して必要な事項は別に定める。

第9章 財産および会計

(財産の種類)

第40条 本会の財産は、基本財産及びその他の財産の2種類とする。

2 基本財産は、本会の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。

3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

(基本財産の維持及び処分)

第41条 基本財産は、本会の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

- 2 やむを得ない理由により基本財産の一部を処分又は基本財産から除外しようとするときは、理事会の決議を得なければならない。

(財産の管理および運用)

第42条 本会の財産の管理及び運用は、会長が行うものとし、その方法は、理事会の決議により別に定める。

(事業年度)

第43条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(剰余金)

第44条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

(会計原則)

第45条 本会の会計は、一般に公正妥当と認められる会計の慣行に従うものとする。

- 2 本会の財産の管理及び会計処理に関し必要な事項は理事会で定める。

(事業計画及び予算)

第46条 事業計画及び予算は、毎事業年度開始前に理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。

(事業報告及び決算)

第47条 事業報告及び計算書類（貸貸対照表、損益計算書（正味財産増減計算書））は、毎事業年度経過後3ヶ月以内に、監事の監査を受け、理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。

第10章 事務局

(事務局の設置)

第48条 本会の事務を処理するために事務局を設置する。

- 2 事務局に職員を置くことができる。
- 3 重要な職員は会長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

第11章 定款の変更及び解散等

(定款変更)

第49条 この定款は総会の決議によって変更することができる。

(合併等)

第50条 本会は、総会において、正会員数の半数以上であって、正会員の議決権の3分の2以上の決議により、他の法人法上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡をすることができる。

(解散)

第51条 本会は総会の決議による他法令で定められた事由により解散する。

(清算)

第52条 本会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第5条第17号に掲げる法人又は国若

しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第12章 雑 則

(公告方法)

第53条 本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

(細 則)

第54条 この定款に定めるものの他、本会の運営に必要な事項、理事会の決議により別に定める。

(法令の準拠)

第55条 本定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。



世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献する

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



第一三共株式会社

もっと飲みやすく。もっと扱いやすく。ジェネリックに、東和品質を。



新薬と同じ効き目であることはもちろん、飲みやすさや見分けやすさ、扱いやすさにいたるまで。東和薬品は、もっと良いお薬を目指し続けます。



飲みやすい

独自のRACTAB技術で、
水なしでも飲みやすく。



ニガくない

ニガみをコーティングし、
お薬が苦手な方にも飲みやすく。



見分けやすい

何のお薬が分かりやすい錠剤や、
飲み間違いを防ぐ包装を採用。



原薬からのこだわり

お薬の効き目のもととなる原薬から
こだわり、製品を安定的にお届け。

医薬品情報に関する
お問い合わせはこちら

東和薬品 学術部 DIセンター (医療関係者様用)

TEL 0120-108-932

トーフ クスリニ
平日 8時30分~18時30分



進捗管理システム

Protrace2

プロトレース ツー

病棟から、処方箋単位で
お薬の進捗状況をリアルタイム追跡！
時間が取られがちな電話対応を大幅削減。

「電話問い合わせ」の課題
看護師と薬剤師双方の業務の妨げに！



POINT
1

各病棟から処方箋単位で、
「必要なお薬が今どこにあるか」を確認できます。

POINT
2

調剤全体の最新の進捗状況を
一目でチェック可能です。

POINT
3

メッセージ機能で伝達ミスを防ぎ
情報共有をスマート化します。

POINT
4

病棟ごとに、システムの
導入効果の分析が可能です。

※製品改良のため仕様・構成などを予告なく変更させていただく場合がございます。※掲載内容は2025年10月1日現在のものです。

機器・システム構成から動線を考慮したレイアウトまで、トータルでご提案いたします。お気軽にお問い合わせください。

TOSHO
Your best pharmacy solution

株式会社トーショー
本社 〒144-0033 東京都大田区東糀谷3-8-8

■お問合せ先 9:00~17:00(平日)
TEL (03) 3745-1331(代)

トーショー公式サイト
<https://www.tosho.cc/>



日に日に新たに。

私たちは、医療に関わる人々と繋がり、協力し合い、
皆様の健康を支えることに全力で取り組んでいます。
未来に向かって進むために、今後も患者様、医療に関わる人々が
信頼できる医薬品の製造開発に挑戦し続けます。

あなたの、明日への一歩のために ——。

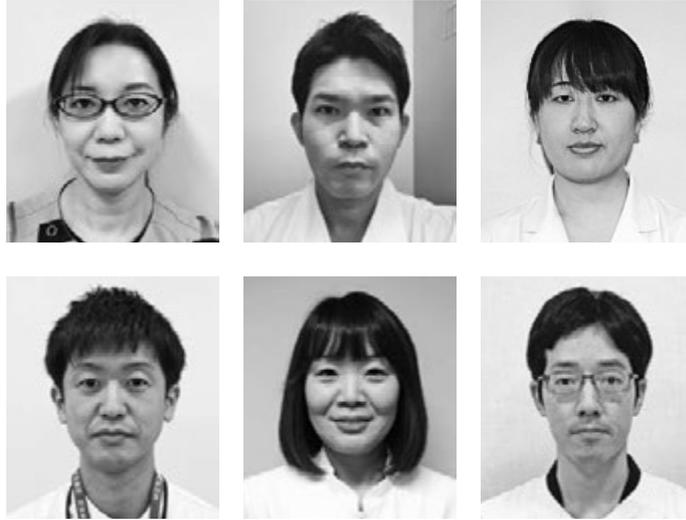
日新薬品株式会社

〒994-0001 山形県天童市万代3番6-2号
TEL 023-658-6116 FAX 023-658-6118

日新製薬株式会社

〒994-0069 山形県天童市清池東二丁目3番1号
TEL 023-655-2131 FAX 023-655-3419

一般社団法人 山形県病院薬剤師会 広報委員会



鶴岡市立荘内病院	富 樫 敦 子	0235(26)5111
山形済生病院	本 田 貴 朗	023(682)1111
日本海総合病院	山 本 桂	0234(26)2001
山形大学医学部附属病院	佐 藤 一 真	023(633)1122
山形市立病院済生館	有 川 真 理	023(625)5555
公立置賜総合病院	太 田 拓 希	0238(46)5000

編集後記

『県病院やまがた広報誌 No.36』をご覧いただき、ありがとうございます。今年度から(一社)山形県病院薬剤師会広報委員会のメンバーが一新され、新体制での発刊となりました。

今号の特集では、山形県病院薬剤師会のホームページの改定内容や、災害対策委員会からのお知らせをご紹介します。情報発信の充実や、災害時の連携強化に欠かせない内容であり、皆さまの日頃の業務にもお役立ていただけるのではないかと思います。特に、災害時の被害状況報告フォームは、緊急時の迅速な情報共有を支える重要なツールです。「必要なときにすぐ使える」ようにするためにも、平時からの理解と準備が大切です。今回の特集が、日常の中で災害対応を意識するきっかけとなれば幸いです。また、県内医療機関における認定・専門薬剤師の資格取得状況についてアンケートを実施し、その結果も掲載しました。近年は多様な資格が存在しますが、今後の広報誌では、資格取得のきっかけや実際の活動内容なども取り上げ、これから資格取得を目指す皆さまの参考になる記事づくりを目指したいと考えております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、執筆や資料提供にご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。より分かりやすく、身近で役立つ広報誌をお届けできるよう、委員会一同努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

山形大学医学部附属病院 佐藤 一真

令和8年2月27日発行

発行人	山口 浩明
発行所	一般社団法人 山形県病院薬剤師会 〒990-9585 山形市飯田西二丁目2番2号 山形大学医学部附属病院 薬剤部内 電話 023(628)5830
印刷	株式会社大風印刷 山形市蔵王松ヶ丘1-2-6 電話 023(689)1111